

ルーツは福岡 夢は世界へ

*Our Roots are in Fukuoka,
Our Dreams are Worldwide*

4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention



2001

第4回 海外福岡県人会世界大会報告書

4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention Report

ルーツは福岡 夢は世界へ

Our Roots are in Fukuoka, Our Dreams are Worldwide

第4回 海外福岡県人会世界大会報告書

4th
Worldwide Fukuoka Kenjinkai
Convention Report



目 次

グラビア	<i>Photograph</i>	
到着風景		1
ショートプログラム		2
福岡県知事・福岡県議会議長表敬		3
記念式典		5
『海外移住における福岡県人の軌跡』写真展 オープニングセレモニー		10
歓迎レセプション		11
県人会代表者会議		18
県人会青年の集い		19
昼食交歓会		20
慰霊碑参拝		21
太宰府天満宮参拝		23
お祭り広場		25
交流会（さよならパーティー）.....		27
県内視察『ふるさとへのツアー』		
福岡地区		31
北九州地区		34
筑豊地区		37
筑後地区		39
海外福岡県人会交流ゲートボール大会		41
『海外移住における福岡県人の軌跡』写真展		43
記 録	<i>Record</i>	
記念式典福岡県知事挨拶		45

目 次

記念式典福岡県議会議長挨拶	49
県人会代表者会議	
県人会代表者会議出席者名簿	53
県人会代表者会議	54
県人会青年の集い	
県人会青年の集い出席者名簿	70
県人会青年の集い	74
新聞掲載記事	<i>Newspaper Scrap</i> 78
ふるさと訪問	<i>Visiting Hometown</i> 82
寄せ書き	<i>Collection of Impromptu Writings</i> 83
記 念 品	<i>Memorial</i> 84
広 報	<i>Public Relations</i> 85
資 料	<i>Material</i> ●
大会参加者	88
実行委員会	99
後援・協賛	101
『海外移住における福岡県人の軌跡』写真展 パネル集	102

到着風景

<福岡空港>

Arrival

おかえりなさい。 ふくおかへ。



福岡空港



12カ国
24県人会から
314人。

● photograph ●

ショートプログラム

[2001年9月10日]

Short Program



櫛田神社

● photograph ●



「博多町家」ふるさと館



博多祇園山笠



博多人形



福岡県知事・福岡県議会議長表敬

[2001年9月10日]

Courtesy Visit to Governor of Fukuoka and Chairman of Prefectural Assembly

● photograph ●



知事の歓迎挨拶

県知事表敬

Courtesy Visit to Governor of Fukuoka

県庁へ到着



挨拶する海外県人会代表



県議会議長表敬

Courtesy Visit to Chairman of Prefectural Assembly



議長の歓迎挨拶

<福岡県庁・福岡県議会>



福岡県庁



福岡県議会



自己紹介する海外県人会代表



議場での記念撮影

● photograph ●

記念写真

Commemorative Photograph



第4回 海外福岡県人会 世界大会 2001年9月10日 於福岡



記念式典 [2001年9月10日]

Commemorative Ceremony



A Scene of Registration

受付風景



● photograph ●

開会宣言

Opening Pronouncement



稗田慶子福岡県副知事

国歌吹奏

Playing the National Anthem



福岡県警察音楽隊



中洲より
グランド・ハイアット・福岡を望む



<グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルーム>

主催者挨拶

Host's Address

実行委員会会長

麻生 渡福岡県知事



● photograph ●



実行委員会顧問

藏内勇夫福岡県議会議長

実行委員会副会長

矢野 ベードロブラジル福岡県人会会長



● photograph ●



外務大臣祝辞代読
福岡県国際交流議員連盟
新宮松比古会長

来賓祝辞

Guest's Address



在福岡アメリカ合衆国領事館
ウー・C・リー首席領事



壇上に並ぶ県人会代表の皆さん



アトラクション

Attractions



● photograph ●

古賀メロディギター アンサンブル

演奏曲「誰か故郷を想わざる」
「影を慕いて」
「丘を越えて」
「湯の町エレジー」



一緒に口ずさむ県人会の皆さん



博多民謡協会

筑前今様「黒田節幻想曲」



● photograph ●



アトラクション

Attractions



博多民謡協会

そろばん踊り

飯塚コスモスコモン 少年少女合唱団

合唱曲 「靴が鳴る」
「七つの子」
「アメフリ」
「ふるさと」



『海外移住における福岡県人の軌跡』

写真展 オープニングセレモニー [2001年9月10日] <グランド・ハイアット・福岡 サボイ>

Opening Ceremony for Emigration Photo Exhibition of Worldwide Fukuoka Kenjinkai



テープカット

● photograph ●



主催者挨拶

Host's Address

稗田慶子福岡県副知事



(株)西日本新聞社
豊田泰之事業局長



歓迎レセプション

[2001年9月10日]

Welcoming Reception

実行委員会会長挨拶

Address of Chairman of
The Executive Committee



麻生 渡福岡県知事

海外県人会代表挨拶

Address of Representative
of Worldwide Kenjinkai



井上英一南加福岡県人会会長

開催地市長挨拶

Address of Mayor of
Host City



山崎廣太郎福岡市長

<グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルーム>

鏡開き

Kagamibiraki



● photograph ●

乾杯

Toast



山下寛彦福岡県観光連盟会長



歓談

Banquet



ボランティアとの歓談



● photograph ●

アトラクション

Attractions

小倉祇園太鼓

末広2・3丁目チーム



海外県人会演技披露

詩吟
 ブラジル福岡県人会
 立石松男さん



日本舞踊
 メキシコ福岡県人会
 飯田明子さん

アトラクション

Attractions

海外県人会演技披露



日本舞踊
シアトル福岡県人会 岩本幸子さん



フラダンス
カウアイ福岡県人会の皆さん



飛び入りで演舞する
サンフランシスコ福岡県人会
井上ロバートさん

日本舞踊
ハワイ島福岡県人会
野田リリアンさん



詩吟
シアトル福岡県人会 田中良実さん





アロハソング
カウアイ福岡県人会
ハワイ島福岡県人会
コナ福岡県人会の皆さん

海外県人会演技披露



詩吟
サンフランシスコ福岡県人会
岩崎幸次郎・栄子夫妻

詩吟
湾東福岡日系人会
古賀善弘さん



メキシカンソング
メキシコ福岡県人会
テレサ・ウジョアさん

アトラクション

Attractions



博多民謡協会

博多どんたく囃子

海外県人会の皆さんも飛び入りで参加



合屋嘉人関西福岡県人会会長

万歳三唱

Give three cheers Banzai for Worldwide Fukuoka Kenjinaki



● photograph ●

県人会代表者会議

[2001年9月11日]

<グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルームBC>

Worldwide Kenjinkai Representatives Conference



議長を務める
柳瀬友一南加福岡県人会顧問

● photograph ●



県人会青年の集い

[2001年9月11日]

<グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルームA>

Worldwide Kenjinkai Youth Meeting



グループによるディスカッション



コーディネーター
九州大学大学院
古谷嘉章助教授



● photograph ●

昼食交歓会

[2001年9月11日]

<グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルームD>

Lunch Reception



● photograph ●



サンフランシスコ福岡県人会 才藤千津子さん
による「青年の集い」の報告



麻生 渡福岡県知事挨拶

慰霊碑参拝

[2001年9月11日]

A Visit to Memorial Tower



福岡県知事祭詞代読
榊原英夫 (財)福岡県国際交流センター専務理事



福岡県海外移住家族会祭詞
武藤英治会長

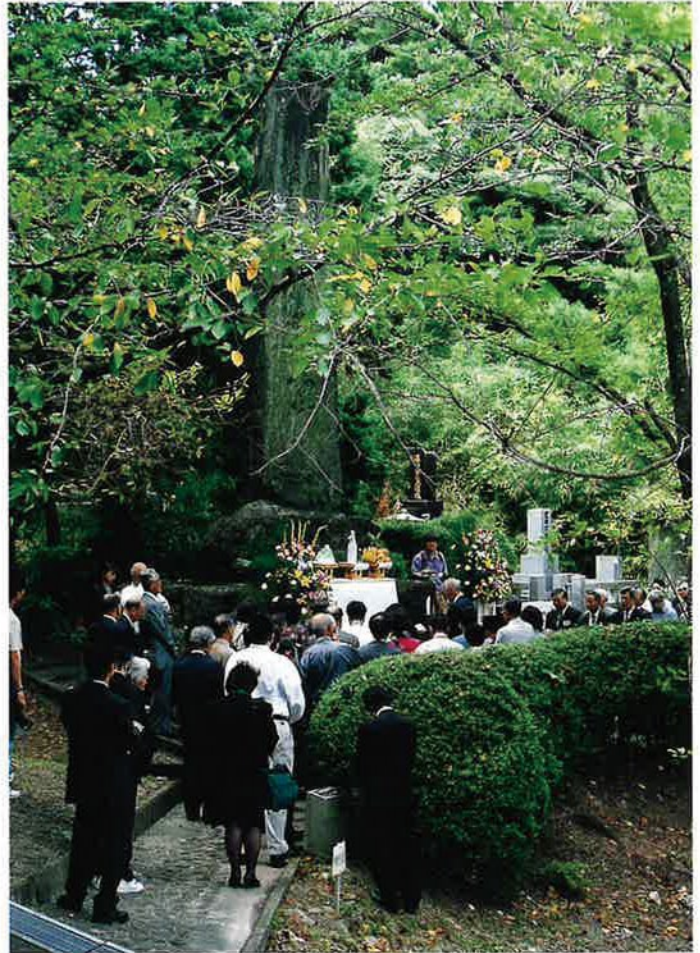


海外福岡県人会代表祭詞
ブラジル福岡県人会 宗友夫副会長



● photograph ●

<平尾霊園「海外同胞長逝者招魂碑」>



● photograph ●



太宰府天満宮参拝

[2001年9月11日]

A Visit to Dazaife Shrine

● photograph ●



禰宜から説明を受ける参加者

本殿参拝



<太宰府天満宮>

● photograph ●



木うそ



御神酒をいただく



太宰府天満宮



展示品の説明を聞く参加者



宝物殿見学

お祭り広場

[2001年9月11日]

Omatsuri-hiroba

お祭り広場のさまざまな催しは、赤い大地の会の皆様により企画・運営されました



だるま落とし



金魚すくい



竹細工



輪なげ



竹とんぼ

● photograph ●

＜西鉄グランドホテル プレジール＞



餅つき



餅まき



抽選会



久留米ラーメン



バナナの叩き売り

福岡の地酒コーナー



交流会(さよならパーティー)

[2001年9月11日]

Farewell Party



交流会司会

MC of Farewell Party

矢野百合江 (ブラジル)
藤井加奈子 (ポリビア)

主催者挨拶

Host's Address



稗田慶子福岡県副知事

福岡県議会挨拶

Address of Fukuoka Prefectural Assembly



大石正紀福岡県議会副議長

県人会代表挨拶

Address of Representative of Worldwide Kenjinkai



ジョージ・有吉元ハワイ州知事

代表者会議議長報告

Report of Representatives Conference



柳瀬友一顧問 (南加)

● photograph ●

<西鉄グランドホテル 鳳凰の間>

乾杯

Toast



今林 久大会実行委員会幹事会幹事長



公務多忙の中かけた
麻生 渡福岡県知事

Banquet

歓談



郷土料理に舌鼓を打つ県人会の皆さん

● photograph ●



ラテン音楽デュオグループ「ハル」によるミニコンサート

のど自慢大会
矢野マルシアゆりえさん
(ブラジル)



NHKのど自慢(西日本
地区)の演奏バンド「ニ
ューハッチャーオーケ
ストラ」による生伴奏

- この他に
高 数義さん(ブラジル)
リーブス 節子さん(シアトル)
ガイズマン イツコさん(シアトル)
ラポーゾ 廣子さん(シアトル)
田中 鶴子さん(シアトル)
藤島 芳子さん(湾 東)
遠藤 晃一さん(南 加)
田中 恵子さん(ブラジル)
田中 公さん(ブラジル)
行徳 万里男さん(ブラジル)
行徳 由紀子さん(ブラジル)
浅田 佳恵子さん(シアトル)
岩本 幸子さん(シアトル)
青木 リリアンさん(シアトル)
西 靖之さん(湾 東)
が自慢ののどを披露されました



● photograph ●



● photograph ●

炭坑節



万歳三唱

Give three cheers Banzai for Worldwide Fukuoka Kenjinaki



県内視察 『ふるさとへのツアー』

[2001年9月12日]

Inspection Tour in Fukuoka Prefecture

福岡地区

Fukuoka region

福岡ドーム～福岡タワー～中世博多展～シーホークホテル（昼食）
～福岡市博物館～筥崎宮（放生会）



福岡ドーム



開閉式屋根



福岡タワー



展望室より市内を望む





中世博多展



シーホークホテル (昼食)



● photograph ●



福岡市博物館



筥崎宮 (放生会)





八朔の馬

北九州地区

Kitakyushu region

和布刈神社～門司港レトロ地区（昼食）～北九州博覧祭



● photograph ●



和布刈神社



左建物 左建物
右建物 右建物
レトロ展望室
中央 国際友好記念図書館
旧門司税関



はね橋・ブルーウィングもじ



● photograph ●



旧門司税関



関門海峡にかかる関門橋
(レトロ展望室より)



昼食風景 (門司港ホテル)



平尾台



北九州博覧祭



● photograph ●

筑豊地区

Chikuho region

英彦山神宮奉幣殿～英彦山温泉しゃくなげ荘（昼食）～上野焼窯元

● photograph ●



英彦山神宮



300段の石段にチャレンジする
箱田ダンさん 81才(ハワイ島)



権宮司の説明に耳を傾ける参加者



川渡り神幸祭



王塚古墳



香春岳



英彦山温泉しゃくなげ荘 (昼食)



● photograph ●

上野焼窯元





大牟田夏祭り大蛇山



筑後川

筑後地区

Chikugo region

柳川川下り～御花～原鶴温泉泰泉閣(昼食)～ぶどう狩り



川下り



御花



● photograph ●



原鶴温泉泰泉閣 (昼食)



● photograph ●



ぶどう狩り



八女茶つみ

筑後川昇開橋



海外福岡県人会交流ゲートボール大会

[2001年9月13日]

Exchange Gate Ball Tournament of Worldwide Fukuoka Kenjinkai

参加チーム整列

Line up of Participating Teams



ブラジル福岡県人会3チーム
混成チーム(パラグアイ・ボリヴィア・宗像市)

福岡県選抜2チーム
宗像市2チーム
両筑地区家族会4チーム

開会挨拶

Opening Address



稗田慶子福岡県副知事

開催地市長挨拶

Address of Mayor of Host City



原田慎太郎宗像市長

開会宣言

Opening Pronouncement



矢野ベードロブラジル福岡県人会会長

始球式

Opening of a Ball Game



● photograph ●

<宗像中央公園内ゲートボール場>

試合風景

A Scene of Match



ブラジルチーム対混成チーム

● photograph ●



応援の皆さん

ゲートボールを通じて交流の輪が広がる



表彰式

『海外移住における福岡県人の軌跡』写真展

Emigration Photo Exhibition of Worldwide Fukuoka Kenjinkai

久留米

Kurume

<えーるピア久留米市民ギャラリー>



北九州

Kitakyushu

<北九州市小倉北区役所市民ギャラリー>





Fukuoka

福岡

<グランド・ハイアット・福岡 エントランスロビー>



● photograph ●

飯塚

Iizuka

<飯塚コスモスコモン展示ホール>



記念式典福岡県知事挨拶

このたびは、12カ国24の福岡県人会から300名を超す方々が、この世界大会のために遠路はるばる里帰りを果たされました。500万県民を代表いたしまして、皆様方の里帰りを心から歓迎申し上げます。

そして、ここ福岡の地で大変盛大に「第4回海外福岡県人会世界大会」を開催できますことを、私ども郷里の者といたしまして、大変嬉しく、また、誇りに思っております。

福岡県からは、本当にたくさんの皆様方が海外を目指して雄飛されております。その数は全国で四番目に多く、戦前、戦後を通じ5万5千人にも達しております。

その歴史は1885年のハワイ移住に始まり、ゆうに一世を超えております。その長い歳月に思いをはせるとき、改めて深い感慨を覚えるしだいでありませぬ。

移住されました皆様方は、言葉はもとより気候や風土など、異なる環境の中で大変な御苦労をされながら、幾多の困難を克服してこられました。そして、今日、様々な分野で大いに活躍され確固たる地位を築かれますとともに、それぞれの移住先国の発展に大きく貢献しておられます。ここに至るまでの皆様方の御苦労と御努力に、心から敬意を表します。

この海外福岡県人会世界大会は、県人会相互の交流を図ろうということから、1992年に第1回の大会がロサンゼルスで開催されました。以後3年ごとにサンパウロ、ハワイで開催され、回を重ねるごとに参加者も増え、交流の輪も大きく広がっております。

今回の福岡大会では、一世の方々が少なくなり、二世、三世へと若い世代への世代交代が進む中、今後の県人会の運営や、福岡県とのつながりをどう維

持、発展させていくか。これも、大きなテーマであると考えております。

このような中、海外県人会の青年と県内の青年とで、「21世紀における福岡県人会のネットワークづくり」について話し合う青年の集いも行われます。この若者たちの出会いが新たな交流の扉を開いてくれるものと大いに期待しております。

皆様の郷里福岡県は、一昨年人口が500万人を超え、先端的な産業の育成をはじめ高度の産業が集積し、西日本の中心として着実な発展を遂げております。昨年は、九州・沖縄サミット蔵相会合の開催地として会議の成功に大きく貢献するなど、世界に開かれた交流拠点を目指しており、今後とも本県と海外県人会、そしてそれぞれの在住国との交流が幅広い分野で活発に行われることを期待しております。

海外県人会の皆様におかれましては、ふるさと福岡をゆっくりと御覧いただき、また、新しい出会いと交流を通じまして、今回の里帰りをすばらしいものとされますよう、心から願っております。

最後に、本大会の開催にあたりまして心温まる御寄付をはじめ多大な御協力を賜りました関係各位に対し心から感謝申し上げますとともに、海外県人会の益々の御発展、そして、御出席の皆様の一層の御健勝と御活躍を心から祈念いたしまして、御挨拶いたします。

2001年9月10日

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会会長
福岡県知事 麻生 渡

Governor of Fukuoka Prefecture's Address at Commemorative Ceremony

It is indeed gratifying to greet more than 300 people representing 24 Fukuoka kenjinkais in 12 countries. On behalf of the 5 million residents of Fukuoka Prefecture, I would like to say, "Welcome home!"

It has then a great joy and a great honor for us in Fukuoka to be able to host this "4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention."

A tremendous number of people emigrated from Fukuoka prefecture over the years. We count a total of 55,000 emigrants, which ranks Fukuoka fourth nationwide.

The history of Fukuoka emigration began in 1885 when the first Fukuoka people went to Hawaii. This is a process with more than a century behind it, and one that is deeply moving in its scope and breadth.

When they arrived at their new homes, the emigrants had enormous difficulties to overcome. The language was different, as were the climate and customs. They labored hard to adapt to new and strange surroundings, and today they have earned positions of leadership and respect in many fields. Fukuoka emigrants have contributed substantially to the development of their new countries. I wish to pay my deep respect for the tremendous efforts and sacrifices that have brought us to this point.

The first Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention was held in 1992 in Los Angeles as an opportunity for exchange among Fukuoka kenjinkais. Convention have been held every three years since. The next was in Sao Paulo, and then in Hawaii. Each time, the number of participants grows, and the circle of exchange expands.

One of the trends we must note is the decline first-generation membership of Fukuoka kenjinkais. Leadership is shifting to the second and third generations, and one of the challenges before us is how to maintain and develop both the operations of Fukuoka kenjinkais and their ties with Fukuoka.

We have scheduled a meeting for young kenjinkai members and young people from the prefecture to discuss "Fukuoka kenjinkai networks in the twenty-first century" as a means of addressing these issues. It is my hope and wish that the encounter formed by young people in this meeting will open the doors to new exchange in the future.

Your homeland of Fukuoka Prefecture crossed the 5 million population line last year. It has become the home of a large concentration of advanced industries and is emerging as one of the centers of development in western Japan. Last year, Fukuoka hosted the Kyushu-Okinawa Summit Finance Ministers Meeting and contributed greatly to its success. The city and prefecture continue to develop as open, cosmopolitan communities, and we hope that we will forge broad ties between the prefecture, worldwide kenjinkais and the countries in which you reside.

I invite you to look around and enjoy Fukuoka while you are here. I hope that this return to your roots will be significant and beneficial for you, that you will make new friends and acquaintances while you are here.

Before I close, I would like to take this opportunity to express my thanks to all those who provided such unstinting cooperation for this convention, including the many heart-warming financial contributions that were received. I look forward to the continued development of Worldwide Fukuoka Kenjinkai and wish all of you here today the very best of health, happiness and success in your endeavors.

September 10, 2001

Wataru Aso
Chairman, The Executive Committee for
the 4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention
Governor, Fukuoka Prefecture

Palabras de Saludo del Gobernador de la Prefectura de Fukuoka en la Ceremonia Conmemorativa

En esta ocasión, más de 300 personas provenientes de 24 Kenjinkai de Fukuoka de 12 países se han tomado la molestia de venir desde muy lejos, con el fin de asistir a esta Convención Mundial. En nombre de los cinco millones de habitantes de Fukuoka, deseo extender mi cordial bienvenida a todos ustedes en su retorno a esta tierra natal.

Constituye una gran alegría y orgullo para nosotros originarios de aquí el hecho de poder celebrar solemnemente en Fukuoka la “Cuarta Convención Mundial de Kenjinkai de Fukuoka”.

Desde aquí, un número realmente significativo de personas ha extendido sus actividades al extranjero. Ocupa el cuarto lugar en todo el país en cuanto al número de emigrantes, alcanzando un total de 55,000 en las épocas anterior y posterior a la guerra.

Su historia comenzó con la emigración a Hawai en 1885, y ha transcurrido fácilmente un siglo desde entonces. Al pensar en ese lapso de largos años, me lleno nuevamente de una profunda emoción.

Los emigrantes han de haber luchado duramente para vencer numerosas dificultades en un ambiente tan distinto, no sólo por el idioma sino también por las cuestiones climáticas. Hoy día, desplegando notables actividades en diferentes áreas, han llegado a ocupar distinguidas posiciones y, además, han contribuido de manera importante al desarrollo del país anfitrión correspondiente. Manifiesto mi profundo respeto por los esfuerzos que han realizado para lograr todo esto.

La Primera Convención Mundial de Kenjinkai de Fukuoka tuvo lugar en Los Angeles en 1992, con el propósito de estrechar las relaciones mutuas entre las asociaciones de Kenjinkai. Posteriormente, se ha organizado en Sao Paulo y en Hawai, cada tres años, y se incrementa cada vez más el número de participantes, expandiéndose así la esfera del intercambio.

En esta convención que se celebra con sede en Fukuoka, se observa la reducción de la primera generación de emigrantes, y se pasa a manos de las generaciones segunda y tercera. Por ello, considero como un tema

importante estudiar de qué manera deberíamos llevar la administración de Kenjinkai en el futuro, mantener y desarrollar sus relaciones con la Prefectura de Fukuoka.

En tales circunstancias, se llevan a cabo reuniones entre los jóvenes de Kenjinkai en el extranjero y de Fukuoka, con la finalidad de discutir sobre la “formación de la Red de Kenjinkai de Fukuoka para el siglo 21”. Tenemos depositadas grandes esperanzas en estos encuentros juveniles, para que contribuyan a abrir nuevos horizontes del intercambio.

En la Prefectura de Fukuoka, la tierra natal de ustedes, la población rebasó 5,000,000 de habitantes el año antepasado, y ha venido logrando un desarrollo seguro como el centro del Japón occidental, donde se implementa el fomento industrial que va a la vanguardia, así como la concentración de las industrias de alto grado. El año pasado, contribuyó enormemente al éxito de la reunión de ministros de hacienda como sede de la Cumbre de Kyushu y Okinawa, con el fin de convertirse en la base de intercambio abierta hacia el mundo entero. Espero que siga llevándose a cabo activamente en diversas áreas el intercambio entre la Prefectura de Fukuoka, Kenjinkai en el extranjero y cada uno de los países de origen.

Deseo de todo corazón que los integrantes de Kenjinkai en el extranjero puedan conocer con calma su tierra natal Fukuoka, y que este viaje les resulte maravilloso con los nuevos encuentros e intercambio.

Para finalizar, sólo me resta expresar mi profundo agradecimiento a todas las personas que nos han ofrecido generosos donativos y cooperación para la realización de esta convención. Hago mis mejores votos por que Kenjinkai se siga desarrollando en el extranjero, y que todos los aquí presentes gocen de buena salud y éxito.

10 de septiembre de 2001

Wataru Aso

Presidente del Comité Ejecutivo de la Cuarta Convención Mundial de Kenjinkai de Fukuoka
Gobernador de la Prefectura de Fukuoka

Mensagem do Governador de Fukuoka na Cerimônia Comemorativa

Neste momento, estão presentes mais de 300 pessoas representando 24 Associações de Kenjinkai de 12 países, as quais vieram especialmente para esta Convenção, fazendo uma longa viagem para chegarem a esta terra materna. Representando os 5 milhões, o povo desta província, gostaria de expressar aqui o meu sentimento de boas vindas pela volta à terra materna.

E ainda, poder realizar aqui em Fukuoka, a “4ª. Convenção Mundial de Kenjinkai de Fukuoka” em escala assim tão grandiosa, é para mim que sou natural de Fukuoka, motivo de muita alegria e orgulho.

Da província de Fukuoka, muitas pessoas como as senhoras e os senhores voaram corajosamente visando o mundo afora, o exterior, e esta é a quarta província do Japão em números de imigração, atingindo 55 mil pessoas durante o período antes e depois da guerra.

A história deu o seu início com a imigração ao Havaí em 1885, seja, já se passaram mais de cem anos. Fico emocionado ao pensar neste longo tempo passado.

As senhoras e os senhores que emigraram, passaram por diversas dificuldades ambientais, a começar pela diferença da língua, clima, hábitos sociais. Porém, conseguiram superá-las. E hoje, já estão firmemente estabelecidos, atuando em diversas áreas, como também contribuindo para o desenvolvimento dos respectivos países. Gostaria de expressar do fundo do coração, o meu respeito pelo sofrimento e esforço destas pessoas.

Esta Convenção Mundial de Kenjinkai de Fukuoka, se deu início em 1992, onde fora realizada a primeira convenção em Los Angeles, com o objetivo de fazer o intercâmbio mútuo entre as Associações de Kenjinkai. E posteriormente, a cada três anos foram realizadas em São Paulo e Havaí. A cada encontro realizado, vem aumentando o número de participantes, como ampliando o network entre as Associações de Kenjinkai.

Nesta Convenção de Fukuoka, refletindo a situação da redução do número de isseis, primeira geração e considerando que estamos no período transitório, de transferência para a segunda e terceira geração, penso que um dos grandes temas a serem discutidos é a questão de como executar a gestão futura das Associações de

Kenjinkai e de como manter a ligação e o relacionamento juntamente com a Província de Fukuoka.

Considerando estes fatores, será realizado encontro entre os jovens das Associações de Kenjinkai do exterior e da Província de Fukuoka, para discutir sobre a “formação de network de Fukuoka Kenjinkai voltada ao Século 21”. É de nossa esperança, de que o encontro destes jovens seja um dos meios para abrir as portas para um novo intercâmbio.

A população da província de Fukuoka, a terra materna dos senhores, ultrapassou no ano passado a casa dos 5 milhões de habitantes. E começando pelo treinamento de capacitação para as indústrias de ponta, concentram-se aqui indústrias de tecnologia avançada, desenvolvendo-se de maneira firme como um polo central da região oeste do Japão. No ano passado, fomos o anfitrião do Kyushu-Okinawa Summit, onde fora realizada o encontro dos Ministros das Finanças, contribuindo-se assim para o sucesso do evento do Summit. Visando tornarmos em uma base de intercâmbio aberta ao mundo, é do meu desejo de que sejam realizadas diversas atividades de intercâmbio entre esta província e as Associações de Kenjinkai do exterior e os respectivos países.

Para as senhoras e os senhores das Associações de Kenjinkai, gostaria que apreciassem as belezas de Fukuoka, e desejo que possam levar muitas recordações da terra materna, através de novas amizades e encontros.

Gostaria de terminar as minhas palavras, citando que para organizar esta Convenção, recebemos várias cooperações, apoio e doações gratificantes de diversas pessoas. Expresso aqui o meu profundo agradecimento, como também desejo o crescimento ainda maior das Associações de Kenjinkai do exterior e bastante saúde e sucesso das senhoras e senhores presentes.

10 de setembro de 2001

Wataru Aso

Presidente da Comissão Executiva da 4ª. Convenção Mundial de Kenjinkai de Fukuoka
Governador da Província de Fukuoka

記念式典福岡県議会議長挨拶

みなさん、福岡へようこそお帰りなさい。心から皆様方を歓迎いたします。

また先程は、私どもの福岡県議会を12カ国24の海外県人会の代表の皆様方にご表敬いただきました。今日はたくさんの福岡県議会議員も出席させていただいておりますが、議会を代表いたしまして、深く敬意を表し、お礼を申し上げます。

21世紀初めの年に、世界大会が皆様のふるさとであります福岡で開催されますことを、大変うれしく思っております。

本県から海外へ雄飛された一世の方、そして二世、三世の方々がふるさと福岡に戻られまして、今こうして一堂にお集まりになっております姿を目の当たりにしますと、胸に熱いものを感じます。

移住先では異なる環境の中、筆舌に尽くしがたい御苦勞をされながら、幾多の困難を乗り越えられたことと思います。しかし、その皆様方の足跡が、本県と移住先国との架け橋として、大きな役割を果たしてこられたことに、心から敬意を表しますとともに、今日の福岡県の発展に大きな貢献を頂いているものであり、心から厚くお礼を申し上げます。本当に御苦勞さまでした。

皆様方の中には、今回初めてふるさと福岡にお帰りになられた方もいらっしゃると思っておりますし、他の県人会の方々との再会を心待ちにされている方も大勢いらっしゃると思います。

この福岡で御親戚をはじめ、いろいろな方々と出会い、あるいは再会されまして、一つでも多く福岡での良い思い出を作ってくださいたいと思っております。

この大会を契機に、県人会の方々を作られました基礎を21世紀にしっかりと引き継ぎ、今回参加されている若い人たちにより、さらにネットワークを広げ、世界に羽ばたいてほしいと願っております。

最後になりましたが、県人会の皆様及び、県内外の御関係者の皆様方の今後ますますの御健勝と御発展を心から祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

2001年9月10日

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会顧問
福岡県議会議長 藏内 勇夫

Chairman of Fukuoka Prefectural Assembly's Address at Commemorative Ceremony

Welcome home! Welcome to Fukuoka! I would like to express my words of welcome to you all from the bottom of my heart.

And a little while ago, representatives of 24 Fukuoka Kenjinkais from 12 countries came to visit us at the prefecture assembly. On behalf of the assembly members, I would like to extend my heartfelt appreciation to your visit.

It is a pleasure to host this worldwide convention here in your homeland of Fukuoka in the first year of the twenty first century.

It fills my heart to see the first generation of emigrants who left the prefecture for foreign countries, and also the second and third generations, return here to Fukuoka and gather together under one roof. What an amazing sight!

In the strange, new surroundings of your adopted countries, you underwent untold hardships and trials, and you overcame them. In your footsteps have risen bridges between Fukuoka Prefecture and your new countries, and you have played a substantial role in erecting them. You have my deep, heartfelt respect for this, and also my heartfelt gratitude for the significant contributions that you make to the development of Fukuoka Prefecture. Thank you, thank you very much.

I understand that for some of you this is your first time to come back to Fukuoka. I also understand that many of you have been looking forward to meeting up again with friends that you have made in earlier kenjinkai conventions. I hope that while you are here you will be able to meet and be reunited with your relatives in Fukuoka and with the people of this prefecture, and that you will take home with you many fond memories of Fukuoka.

The conventions have made it possible to lay down strong foundations for the kenjinkais. These are foundations that we must pass along to the twenty-first century. I urge the young people who are here today to expand this network across the globe.

Allow me to close by expressing my best wishes for the health and success of Fukuoka kenjinkai members and all those from Fukuoka and elsewhere involved in this convention.

September 10, 2001

Isao Kurauchi
Counselor, The Executive Committee for the 4th Worldwide
Fukuoka Kenjinkai Convention
Chairman, Fukuoka Prefectural Assembly

Palabras de Saludo del Presidente de la Asamblea de Fukuoka en la Ceremonia Conmemorativa

Sean todos bienvenidos a Fukuoka. Ofrezco una cordial bienvenida a todos.

Anteriormente, los representantes de 24 kenjinkai de Fukuoka de 12 países nos hicieron la visita de cortesía en la asamblea de Fukuoka. En representación de la asamblea de Fukuoka, manifiesto mi profundo respeto y mi más sincero agradecimiento.

Es un gran placer para mí que en el primer año del siglo XXI la Convención Mundial se haya celebrado en Fukuoka, la tierra natal de todos ustedes.

Me emociona profundamente ver reunidos en este lugar a los emigrantes de la primera generación, de la segunda, de la tercera, quienes hayan vuelto a Fukuoka después de haber expandido sus actividades al extranjero.

Imagino que en sus países de origen han vencido numerosas dificultades en un ambiente distinto, con enormes esfuerzos indescriptibles. A la vez de expresar mi sincero respeto por el hecho de que las huellas dejadas por ustedes hayan desempeñado un importante papel como un puente entre sus países de origen y Fukuoka, deseo transmitir mi profundo agradecimiento porque han contribuido de manera importante al desarrollo del Fukuoka de hoy. Gracias de todo corazón por sus enormes esfuerzos.

Tengo entendido que algunos de ustedes han venido a Fukuoka por primera vez, y supongo que muchos se encuentran a la expectativa de un nuevo encuentro con otros Kenjinkai.

Espero que se lleven la mayor cantidad posible de agradables recuerdos de Fukuoka, reuniéndose con sus parientes y estableciendo nuevos encuentros con muchas personas más.

Espero que esta convención constituya la ocasión para que los cimientos construidos por los integrantes de Kenjinkai sean sucedidos seguramente en el siglo 21, y que los jóvenes participantes en esta ocasión procuren extender aún más la Red y vuelen hacia el mundo.

Para finalizar, sólo me resta hacer mis mejores votos por la salud y el éxito de todos los miembros de Kenjinkai, así como de las personas que han intervenido en el evento dentro y fuera de Fukuoka.

10 de septiembre de 2001

Isao Kurauchi
Consejero del Comité Ejecutivo de la Cuarta
Convención Mundial de Kenjinkai de Fukuoka
Presidente de la Asamblea de Fukuoka

● record ●

Mensagem do Presidente da Câmara da Província de Fukuoka na Cerimônia Comemorativa

Senhoras e senhores, sejam bem vindos por voltarem a Fukuoka. Aceite os meus bem vindos pelo retorno, que é do fundo do coração.

E ainda, recebemos a visita de cortesia dos 24 representantes da Associação de Kenjinkai de 12 países na Câmara da Província de Fukuoka. Em nome dos membros da Câmara da Província de Fukuoka, presentes aqui em grande número, gostaria de externar o nosso profundo respeito e agradecimento.

Sinto-me muito feliz em poder realizar no primeiro ano do Século 21 esta Convenção Mundial aqui, em Fukuoka, a terra materna das senhoras e dos senhores presentes.

Sinto um calor no coração, ao ver de perto aqui em minha frente, as senhoras e os senhores, que voaram corajosamente ao exterior, os isseis de primeira geração, como os de segunda e terceira geração, todos juntos, de volta a sua terra materna.

Imagino que não existem palavras para expressar o sofrimento dos senhores, como também de como conseguiram superar as diversas dificuldades nos locais em que se emigraram, vivendo num ambiente totalmente diferente. Porém, cada passo dado pelos senhores formaram uma estrutura firme para construir a ponte que liga a nossa província e os respectivos países em que se emigraram. Nesse sentido, expresso o meu sentimento de profundo respeito por terem executado esta grande função, como também por terem contribuído intensamente para o desenvolvimento da província de Fukuoka. Externo aqui, o meu sincero sentimento de gratidão.

É do meu conhecimento de que entre as senhoras e os senhores presentes, algumas pessoas visitam Fukuoka, a terra materna pela primeira vez, como outras pessoas estão ansiosas em reencontrar os membros de outras Associações de Kenjinkai.

Desejo que aqui em Fukuoka, possam fazer muitas boas recordações, encontrando com os parentes, revendo os amigos e conhecendo novas pessoas.

Gostaria de que a base construída pelas Associações de Kenjinkai sejam repassadas firmemente para o Século 21, aproveitando esta oportunidade de encontros nesta Convenção, e também com a participação dos jovens, sejam ampliados o network para assim poder bater as asas e levantar o vôo para o mundo.

Gostaria de finalizar as minhas palavras desejando do fundo do coração, bastante saúde e sucesso para os membros presentes, as Associações de Kenjinkai, como também aos vossos países de residência.

10 de setembro de 2001

Isao Kurauchi
 Consultor da Comissão Executiva de 4ª Convenção
 Mundial de Kenjinkai de Fukuoka
 Presidente da Câmara da Província de Fukuoka

県人会代表者会議

県人会代表者会議出席者名簿

Participant list of Worldwide Kenjinkai Representatives Conference

県人会	氏名	氏名	役職名	備考
アルゼンチン福岡県人会	津留 浩	Tsuru Hiroshi	副会長	
	大塚 ネストル	Otsuka Nestor	会計	
ボリビア福岡県人会	田島 浩司	Tajima Hiroshi	会長	
	仁田原 収三郎	Nitabara Syuzaburo	監事	
ペレン福岡県人会	小野 重善	Ono Shigeyoshi	会長	
	筒井 茂利	Tsutsui Shigetoshi	名誉会長	
ブラジル福岡県人会	矢野 ペードロ	Yano Pedro	会長	
	宗 友夫	So Tomoo	副会長	
マナウス福岡県人会	宮崎 泰美子	Miyazaki Tamiko	事務局長	
トメアス福岡県人会	加藤 広行	Kato Hiroyuki	会長	
	橋本 常年	Hashimoto Tsunetoshi		
レスブリッジ福岡県人会	中村 和郎	Nakamura Kazuo	会長	
トロント福岡県人会	富永 季徳	Tominaga Suenori	会長	
バンクーバー福岡県人会	猪腰 洋三	Inokoshi Hiromi	幹事	
コロンビア福岡県人会	倉富 剛	Kuratomi Tsuyoshi	会長	
	新地 学	Shinchi Manabu		
メキシコ福岡県人会	飯田 利明	Iida Toshiaki	顧問	
	堤 敬一	Tsutsumi Keiichi	相談役	
パラグアイ福岡県人会	熊谷 満	Kumagai Mitsuru	会長	
	熊谷 美絵子	Kumagai Mieko		
ペルー福岡クラブ	馬場 エンリケ	Baba Enrique	顧問	
ハワイ福岡県人会	セキヤ レイモンド	Sekiya Raymond	副会長	
	小田 昇	Oda Noboru		
ハワイ島福岡県人会	箱田 ミルトン	Hakoda Milton	前会長	
	前田 佐一	Maeda Saichi	元会長	
カウアイ福岡県人会	クウォン クニエ H	Quon Kunie H	代表	
	セト ルース	Seto Ruth	会計	
コナ福岡県人会	新藤 美枝子	Shindo Mieko	代表	
	佐藤 きくの	Sato Kikuno		
南加福岡県人会	井上 英一	Inouye Eiichi	会長	
	柳瀬 友一	Yanase Tomoichi	顧問	議長
	大谷 明義	Otani Akiyoshi	顧問	
サンフランシスコ福岡県人会	岩崎 幸次郎	Iwasaki Kojiro	顧問	
	松岡 孝	Matsuoka Takashi	会長	
シアトル福岡県人会	田中 良実	Tanaka Yoshimi	会長	
	玉井 純夫 グレン	Tamai Glen Sumio	副会長	
湾東福岡日系人会	藤島 惣一	Fujishima Soichi	会長	
	西 靖之	Nishi Yasuyuki	副会長	

県人会代表者会議

日 時：2001年9月11日 10:00～12:00

場 所：グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルーム

- 議 題：1 県人会の活動状況について
 2 21世紀の福岡県人会の運営について
 3 次回の開催地について

出席者：各福岡県人会代表 38名

<討議内容>

議題1 県人会の活動状況について(別添参照)

議題2 21世紀の福岡県人会の運営について

福岡県人会を有意義に活用し運営していくために必要と思われる二点に絞り議論がなされた。

1. 後継者の育成についての意見交換を行った。内容は次のとおり。

(現況)

- ① 全9カ国21福岡県人会は次代を担う後継者の育成に危機感を抱いている。
- ② 福岡県からの移住が始まって120年弱。海を渡った移住一世の多くは亡くなったり、高齢であったりと県人会の中心として活動することが困難である。
- ③ 日本語を解さない、また日本を、福岡県を身近に感じる環境に身を置く機会に恵まれない子弟が多いため、県人会活動に参加しないし、県人会は他人事になっている。

(現況を解決するための提案)

- ① 「日本語を勉強しろ」「県人会の活動に参加しろ」といくら言っても子弟本人に興味があればどうしようもないこと。子弟に興味を持たせるために福岡県が従前より実施している移住者子弟留学生制度(1966年開始)や短期受入制度(1994年開始)などを活用する。福岡である一定の期間を過ごすことにより、見聞を広め、様々な事柄を経験し、地域住民との交流のなかで福岡に愛着を持つ。自分のルーツを知った子弟は福岡県ゆかりの日系人としての誇りを生み出すきっかけにならないだろうか。そうして“誇り”を持った子弟は食欲になり「日本語を勉強したい」「日本文化を理解したい」と考えはじめる。“誇り”を持てば、“日本語”は邪魔にならない。むしろ、より深く日本文化を理解するためには日本語の習得は不可欠と認識し、日本語の習得が進めば、県人会活動への参加意欲が芽生える可能性もおのずと出てくるのではないかと期待する。
- ② 留学生OBなどの協力を得ながら後継者育成セミナーやスポーツ大会などもっと社会的なプログラムを企画し、子弟の興味を引くような県人会作りをする努力を怠ってはならない。
- ③ 日本語以外で会合を開いている県人会もあるが、たとえそうであっても日本語の大切さを訴え続けること

は必要である。

2. 県人会相互の啓発及び交流を促進することは、よりワールドワイドな県人会運営に不可欠であるため、このことについても話し合いを行った。内容は次のとおり。

(現況)

- ① グローバル化がますます進む21世紀、今までの母県福岡と各県人会の縦の交流、協力だけでは、国際交流促進団体としての福岡県人会は広がりを見せない。
- ② 過去、ブラジルとポリヴィア県人会が交流会を実施し、シアトルとバンクーバーなど隣接する県人会同士で紅白歌合戦など開催したことはあるが、ほとんどの県人会では横の交流が少ない。

(現況を解決するための提案)

- ① 各県人会の記念行事(周年行事など)に他の県人会からも参加できるようにして欲しい。そうすることで、3年に一度のこの"世界大会"のみならず、新たに交流の場を設けることができ、より強い絆を生み出す。
- ② 単なる人的交流だけではなく、各県人会の人材を整理し、ビジネスチャンスや就学チャンスを母県のみならず他の国でも作れたらよい。
- ③ ボーダレス時代の県人会相互の啓発を促進するものとしてより強固な横のネットワークを構築すべきであり、現段階での県人会同士の共通語は、母県福岡を含めて"日本語"であるため、コミュニケーションツールとしての"日本語"習得を推奨する。

(まとめ)

留学生制度及び短期受入制度をもっと活用できる様にするため、選考基準の緩和など母県の努力もお願いしたいが、同時に日本を、福岡を身近に感じることのできる環境を子弟に対して作る義務が県人会にあるのではないだろうか。県人会員として、日系人として自分の子供達に対し、多面的な活用の可能性を持っている県人会の重要性と良さを伝えていく。

議題3 次回の開催地について

世界大会の継続開催は代表者会議の総意としながら、現在の3年に一度の"世界大会"ではなく、5年に一度でも良いので母県で開催してほしいとの要望がいくつかの県人会からあった。しかし、この大会開催の趣旨が「県人会持ち回りで交流していく」というものであるとの基本に戻り、次回の開催県人会を決定する必要があるとの結論に達した。「次回開催県人会に経済的、人的な負担をかけないようにしなくてはならない。」との意見を踏まえて、バンクーバー県人会が次回開催地に推薦された。これに対してバンクーバー県人会から「できることなら当地で開催したいが、様々な事柄を検討しなければならないので即答できかねる。持ちかえり追って回答する。」との挨拶があった。

県人会の活動状況について

(期 間 平成12年1月1日～12月31日)

県 人 会	代 表 者	活 動 内 容
アルゼンチン福岡県人会	中 野 安 良	定期総会・ピクニック 月例会議 会員への広報活動・名簿作成
ボリヴィア福岡県人会	田 島 浩 司	定例役員会 (年6回) サン・ファン移住地入植記念祭典 定例会議 (年2回) ブラジル福岡県人会との交流
ベレン福岡県人会	中 島 弘 人	定期総会・新年宴会 定例会議 (年4回) 忘年会
ブラジル福岡県人会	矢 野 ペードロ	定期総会 支部長・理事合同役員会 福岡県ブラジル派遣農業実習生懇談会 県人会主催ゲートボール大会 開拓先没者 慰霊碑追悼法要 2001年度県費留学生選考試験 九州ブロック懇親会 福岡県人ブラジル移住90周年・県人会創立 70周年記念式典
マナウス福岡県人会	江 藤 英 明	定期集会 (年2回) 新年会・忘年会
トメアス福岡県人会	加 藤 広 行	新年会・忘年会 25周年記念式典 敬老会
レスブリッジ福岡県人会	中 村 和 郎	定例役員会 (年2回) 親睦会 定期総会 (忘年会)
トロント福岡県人会	富 永 季 徳	定期総会 (親睦会) 定例役員会議 (年4回～5回) 20周年記念式典 ピクニック・運動会
バンクーバー福岡県人会	清 水 恵 二	会員への広報活動 新春の集い ピクニック (夏季) 紅白歌合戦
コロンビア福岡県人会	倉 富 剛	定期総会 定期役員会 (年4回) 慰霊祭 新年会・親睦旅行・運動会・敬老会
メキシコ福岡県人会	飯 田 博 見	春期野遊会 創立50周年祝賀会
パラグアイ福岡県人会	熊 谷 満	定期総会 役員会 (決算・忘年会 年2回) 県人会創立40周年記念式典 親善ゲートボール大会 (年2回) 釣り大会

県人会	代表者	活動内容
ペルー福岡クラブ	馬場 エンリケ	定期総会 新年会、研修生の歓送迎会 清遊会（年2回） 母の日の催し・敬老会 養老院慰問
ハワイ福岡県人会	諫山 皓一	定期総会（新年祝賀パーティ） 連絡会議 ピクニック
ハワイ島福岡県人会	マツイ カーティス	定期総会 親睦会 県人会子弟助成事業の実施
カウアイ福岡県人会	井上 ノーマン	定期総会 定例役員会（年2回～3回） 新年会 県人会子弟助成事業の実施 ピクニック
コナ福岡県人会	デグチ マサル	定期総会 定期役員会 敬老会
南加福岡県人会	井上 英一	定期総会（新年宴会） 役員会（年12回） 青壮年会（年12回） ピクニック 敬老会との親睦会 先亡者追悼法要 敬老ホーム慰問 忘年会 クラブ活動（ゴルフ大会、釣り大会、菊愛好会、 カラオケ部、ゲートボール部）
サンフランシスコ福岡県人会	松岡 孝	定期総会 創立50周年記念祝賀会 先亡者追悼法要 新年会と敬老祝 慰安旅行
シアトル福岡県人会	田中 良実	定期総会 役員会（年4回） 新年会兼敬老会 バス旅行
湾東福岡日系人会	藤島 惣一	定期総会 定期理事会（年3回） 県人会創立50周年記念式典 新年会 慰安旅行

Worldwide Kenjinkai Representatives Conference

Date and time: September 11, 2001 10:00 - 12:00

Venue: The Grand Ball Room in Grand Hyatt
Fukuoka

Topics: 1. Activities of Kenjinkai.
2. Management of Fukuoka Kenjinkai in the
21st century
3. Venue of the next convention

Participants: 38 persons representing Fukuoka
Kenjinkai and its branches.

<Discussed topics>

Topic 1: Activities of Kenjinkai (Please refer to the
attached sheets.)

Topic 2: Management of Fukuoka Kenjinkai in the
21st century

To consider measures to facilitate more meaningful
use and operation of Fukuoka Kenjinkai, the
discussion took place, focusing on the following two
matters.

1. How to foster future leaders to ensure
sustainability of Fukuoka Kenjinkai.

(Current situation)

- ① Fukuoka Kenjinkai and its 21 branches located
in nine countries are experiencing difficulties in
fostering future leaders to ensure continued
development of Fukuoka Kenjinkai.
- ② It has been almost 120 years since Fukuokans
began to emigrate to foreign countries. Many
of the first-generation emigrants are now dead
or aging and therefore cannot play a leading
role in Fukuoka Kenjinkai.
- ③ Many of children or grandchildren of the first-
generation emigrants cannot understand the
Japanese language or never have had
opportunities to familiarize themselves with
Japan and Fukuoka Prefecture. Therefore, they

are indifferent to Fukuoka Kenjinkai and its
activities.

(Proposals to improve the current situation)

- ① It will be of no use just to force children and
grandchildren of the first-generation emigrants
to study Japanese or join the activities of
Fukuoka Kenjinkai if they have no interest in
Fukuoka. To enhance their interest, effective
use of the study program for descendant and
the short-stay program which Fukuoka
Prefecture launched in 1966 and 1994
respectively should be promoted. Through
their stay in Fukuoka, descendant will have
opportunities to enjoy interactions with local
people and join local events, and naturally
develop an attachment for Fukuoka. In so
doing, they will deepen understanding of their
roots and feel proud of having Fukuoka origin.
Then, these "proud" descendant will become
eager to learn Japanese language and culture,
because deepening their understanding of
Japanese culture requires, among other things,
mastering Japanese language. As they become
more fluent in Japanese, they may want to join
activities of Fukuoka Kenjinkai.
- ② If we are to encourage descendant to join
activities of Fukuoka Kenjinkai, we should
offer programs of social significance, such as
seminars to foster future leaders and sports
meets, in cooperation with the overseas
members having studied in Japan.
- ③ While some overseas branches conduct
meetings in local languages, it is still necessary
to continue to stress the importance of
Japanese.

2. How to encourage the branches of Fukuoka
Kenjinkai to learn from each other and promote

mutual interactions for worldwide operation of Fukuoka Kenjinkai.

(Current situation)

- ① As the globalization trend continues, the conventional "vertical" interactions and cooperation between Fukuoka Kenjinkai and other overseas branches will prevent Fukuoka Kenjinkai from effectively acting as an international exchange organization in the 21st century.
- ② While some events were held between neighboring branches, such as a friendly meet between the Brazil and Bolivia branches and a song contest between the Seattle and Vancouver branches, there have been few cases of "horizontal" interactions among overseas branches.

(Proposals to improve the current situation)

- ① It would be helpful to allow participation of members of other branches in a branch's commemorative programs such as anniversary events. This will offer additional venues of interactions, besides the Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention held every three years, and help to deepen solidarity among members.
- ② Activities of Fukuoka Kenjinkai should not be limited to interactions among members. Rather, it is important to make effective use of the human resources of each branch and provide opportunities for members to work or study in regions other than Fukuoka Prefecture.
- ③ To inspire each branch to work for the development of Fukuoka Kenjinkai in a manner to meet the needs of the borderless age, a stronger horizontal network should be built. As well, overseas members should be encouraged to study Japanese as a communication tool, in light of the fact that the common language of Fukuoka Kenjinkai and its branches is Japanese.

(Summary)

To ensure more effective use of the study and short-stay programs, Fukuoka Kenjinkai is required to lower the criteria for selecting applicants. At the same time, Fukuoka Kenjinkai has an obligation to create an environment where children and grandchildren of the first-generation emigrants feel Fukuoka more familiar to them. Overseas members of Fukuoka Kenjinkai, as Nikkeijin, should instill in their children with the importance and merits of Fukuoka Kenjinkai as a venue for multi-faceted activities.

Topic 3: Venue of the next convention

While all the participants of the Representatives conference agreed on continuation of the Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention, representatives of several overseas branches proposed that the Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention be held not in the current rotating system but permanently in Fukuoka Prefecture even if doing so would result in the meeting held every five years instead of three years. However, considering the original purpose of the Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention to "deepen solidarity among members with each branch serving as a host of the meeting by turn," an conclusion was reached that it was necessary to decide the venue of the next meeting. After discussing possible venues in a manner that would not give economic or personnel burden to the host, the Vancouver branch was nominated as the host of the next meeting. To this decision, the representative of the Vancouver branch showed eagerness to host the next meeting, but refused to accept the decision immediately as several matters had to be discussed before making the final decision. The representative promised that he would discuss this decision with other members of the Vancouver branch and report their conclusion later.

Activities of Kenjinkai

(January 1 to December 31, 2000)

Kenjinkai	Representative	Activities
Argentina Fukuoka Kenjinkai	Yasuyoshi Nakano	Regular general assembly, picnic Monthly meeting, PR to members, preparation of a member list
Bolivia Fukuoka Kenjinkai	Hiroshi Tajima	Regular board meeting (6 times a year) Tree planting ceremony to commemorate the emigration to San Juan Regular meeting (twice a year) Interaction with the Brazil branch
Belem Fukuoka Kenjinkai	Hiroto Nakashima	Regular general assembly, new-year party, Regular meeting (4 times a year) Year-end party
Brazil Fukuoka Kenjinkai	Pedro Yano	Regular general assembly Branch manager/director meeting Reception for agricultural trainees sent from Fukuoka to Brazil Gate ball competition hosted by Kenjinkai Memorial ceremony for early immigrants Examination to select 2001 Fukuoka scholarship students Meeting of Kyushu bloc members Ceremony to commemorate the 90th anniversary of emigration of Fukuokans to Brazil and the 70th anniversary of the establishment of the branch
Manaus Fukuoka Kenjinkai	Hideaki Eto	Regular meeting (twice a year) New-year and year-end parties
Tome -Acu Fukuoka Kenjinkai	Hiroyuki Kato	New-year and year-end parties Ceremony to commemorate the 25th anniversary Event for elderly members
Lethbridge Fukuoka Kenjinkai	Kazuo Nakamura	Regular board meeting (twice a year) Reception Regular general assembly (year-end party)
Toronto Fukuoka Kenjinkai	Suenori Tominaga	Regular general assembly (reception) Regular board meeting (4-5 times a year) Ceremony to commemorate the 20th anniversary Picnic, athletic meet
Vancouver Fukuoka Kenjinkai	Keiji Shimizu	PR to members New-year gathering Picnic (summer) Song contest
Colombia Fukuoka Kenjinkai	Tsuyoshi Kuratomi	Regular general assembly Regular board meeting (4 times a year) Memorial service New-year party, excursion, athletic meet, event for elderly members
Mexico Fukuoka Kenjinkai	Hiroimi Iida	Spring excursion Ceremony to commemorate the 50th anniversary
Paraguay Fukuoka Kenjinkai	Mitsuru Kumagai	Regular general assembly Board meeting (twice a year: financial report, year-end party) Ceremony to commemorate the 40th anniversary Gate ball competition (twice a year) Fishing

Kenjinkai	Representative	Activities
Peru Fukuoka Club	Enrique Baba	Regular general assembly New-year party, welcome reception for trainees Excursion (twice a year) Mother's Day's event, event for elderly members Visit to a home for the aged
Hawaii Fukuoka Kenjinkai	Koichi Isayama	Regular general assembly (new-year party) Liaison conference Picnic
Hawaiishima Fukuoka Kenjinkai	Curtis Matsui	Regular general assembly Reception Support program for children of Kenjinkai members
Kauai Fukuoka Kenjinkai	Norman Inoue	Regular general assembly Regular board meeting (2-3 times a year) New-year party Support program for children of Kenjinkai members Picnic
Kona Fukuoka Kenjinkai	Masaru Deguchi	Regular general assembly Regular board meeting Event for elderly members
Nanka Fukuoka Kenjinkai	Eiichi Inouye	Regular general assembly (new-year party) Board meeting (12 times a year) Young to middle-aged members' meeting (12 times a year) Picnic Interaction with elderly members Memorial ceremony Visit to a home for the aged Year-end party Club activities (golf, fishing, chrysanthemum-growing, karaoke, gate ball)
San Francisco Fukuoka Kenjinkai	Takashi Matsuoka	Regular general assembly Ceremony to commemorate the 50th anniversary Memorial ceremony New-year party and event for elderly members Excursion
Seattle Fukuoka Kenjinkai	Yoshimi Tanaka	Regular general assembly Board meeting (4 times a year) New-year party and event for elderly members Bus excursion
Wanto Fukuoka Nikkeijinkai	Soichi Fujishima	Regular general assembly Board meeting (3 times a year) Ceremony to commemorate the 50th anniversary of the establishment of the branch New-year party Excursion

Reunión de los Representantes de los Kenjinkai

Fecha: 11 de septiembre de 2001, 10: 00 - 12:00

Lugar: Salón "The Grand Ball Room", Hotel Grand Hyatt Fukuoka

Orden del día: 1. Informe de las actividades de los Kenjinkai
 2. Dirección de los Kenjinkai de Fukuoka para el siglo 21
 3. Sede para la próxima convención

Asistentes: 38 representante de los Kenjinkai de Fukuoka

<Contenido de discusión>

Asunto 1: Informe de las actividades de los Kenjinkai (véase el anexo)

Asunto 2: Dirección de los Kenjinkai de Fukuoka para el siglo 21

Nos enfocamos en los siguientes dos temas, considerados de mayor importancia para dirigir y aprovechar plenamente los Kenjinkai de Fukuoka.

1. Intercambiamos opiniones respecto a la formación de sucesores. El contenido se resume de la siguiente manera.

(Situación actual)

- ① Se percibe una crisis en cuanto a la formación de sucesores en los 9 países donde están establecidos los 21 Kenjinkai.
- ② Han transcurrido cerca de 120 años desde el inicio de la emigración de la Prefectura de Fukuoka. La mayor parte de la primera generación de emigrantes han fallecido o han llegado a vejez, por lo que es difícil que ellos sigan desempeñando el papel principal en los Kenjinkai.
- ③ Debido a que sus descendientes no hablan japonés o no viven en un ambiente favorable para familiarizarse con Japón o de la Prefectura de Fukuoka, no participan en las actividades que realizan

los Kenjinkai, y las ven como un asunto ajeno.

(Propuesta para resolver la situación actual)

① Por mucho que se les diga a los hijos que "estudien japonés" o "participen en el Kenjinkai", no tendrá caso si ellos mismos no se interesan realmente por hacerlo. Para despertar el interés en ellos, habrá que promover el sistema de becas para los descendientes de los emigrantes (iniciado en 1966), así como el sistema de aceptación en un plazo corto (iniciado en 1994). Al pasar un tiempo en Fukuoka, podrán conocer otro mundo, adquirir diversas experiencias, y encariñarse con Fukuoka cultivando amistades con los habitantes de las comunidades locales. ¿No podría contribuir esto a que ellos, al conocer su raíz, se enorgullecen de su ascendencia ligada a la Prefectura de Fukuoka? Al sentir ese orgullo, crecerá en ellos el anhelo de "estudiar el idioma japonés" y "comprender la cultura japonesa". Llenos ellos de orgullo, el idioma japonés ya no les será un obstáculo. Al contrario, esperamos que tomen conciencia de que el estudio de japonés será indispensable para profundizar en la cultura japonesa, y que surja la posibilidad por sí sola de que germine en ellos el entusiasmo por participar en las actividades de los Kenjinkai al adquirirse mayor conocimiento del idioma japonés.

- ② Será necesario que nos esforcemos para hacer del Kenjinkai una agrupación más atractiva para las generaciones jóvenes, a través de algunos programas de carácter más social como los seminarios para la formación de sucesores, eventos deportivos, entre otras cosas, consiguiendo la colaboración de ex becarios.
- ③ Algunos Kenjinkai realizan sus reuniones en otros idiomas que no es japonés, pero de todos modos es menester enfatizar la importancia del idioma japonés.

2. Es indispensable para la dirección del Kenjinkai a nivel mundial promover la ilustración y el

intercambio mutuos entre los Kenjinkai, por lo que discutimos sobre este tema, también. El contenido de la discusión es como sigue;

(Situación actual)

① En el siglo 21 en que la globalización avanza cada día más, los Kenjinkai de Fukuoka no podrán expandirse como una organización promotora del intercambio internacional, si dependen sólo del intercambio y la cooperación en forma vertical entre la Prefectura de Fukuoka madre y cada Kenjinkai.

② En el pasado, se ha realizado un intercambio de personas entre los de Brasil y Bolivia, y el concurso de canto (Kohaku) en algunas ciudades vecinas como Seattle y Vancouver. Sin embargo, la mayoría de los Kenjinkai no tienen establecidas las relaciones horizontales.

(Propuesta para resolver la situación actual)

① Solicitamos que cuando un Kenjinkai celebre algunos eventos conmemorativos (como los aniversarios), procure invitar a otros a participar. Esto permitirá que surjan nuevas oportunidades de intercambio, aparte de la "convención mundial" que se lleva a cabo cada tres años, estableciéndose así vínculos más fuertes.

② Sería ideal que se creasen oportunidades de trabajo o estudio no sólo en la prefectura madre sino también en otros países, sin limitarse a un simple intercambio de personas, llevando el control de recursos humanos en cada Kenjinkai.

③ Deberíamos estructurar una red más sólida para poder promover la ilustración mutua entre los Kenjinkai en esta época sin fronteras. Actualmente, el idioma común entre todos, incluyendo la Prefectura de Fukuoka, es "japonés", por lo que se recomienda el aprendizaje del "idioma japonés" como la raíz de la comunicación.

(Resumen)

Se solicita el esfuerzo de parte de la prefectura

madre para aprovechar mejor tanto el sistema de becas como la aceptación de becarios en un plazo corto, concediendo, por ejemplo, flexibilidad a los criterios de selección. A la vez, los Kenjinkai tienen la obligación de crear un ambiente para que las generaciones jóvenes se familiaricen con Japón y Fukuoka. Se trata de que cada uno, como socio del Kenjinkai y descendiente japonés, transmita a sus hijos la importancia del Kenjinkai que guarda grandes posibilidades de ser aprovechado en diversos aspectos para ellos.

Asunto 3: Sede para la próxima convención

Algunos Kenjinkai, afirmando que la voluntad general de la Reunión de los Representantes es celebrar continuamente la convención mundial, han presentado su petición de que la "convención mundial", que se celebra cada tres años, se realice en la prefectura madre, aunque su frecuencia tenga que ser una vez cada cinco años. Sin embargo, se ha llegado a la conclusión de que es necesario volver al objetivo básico de "celebrarla por turno en cada lugar de origen entre los Kenjinkai, con el fin de estrechar el intercambio" y de acuerdo con esto, determinar la siguiente sede de la convención. Tomando en consideración la opinión de "hay que procurar que no sea una carga excesiva tanto económico como de recursos humanos para el siguiente anfitrión", Vancouver ha sido propuesto para la próxima sede. Ante esta propuesta, el Kenjinkai de Vancouver ha respondido de la siguiente manera: "Si está dentro de nuestras posibilidades, nos gustaría asumir este compromiso, pero no podemos dar una respuesta inmediata, puesto que deberíamos examinar varios puntos al respecto. Llevaré este asunto a nuestro Kenjinkai para después hacerles llegar nuestra respuesta."

Informe de actividades de los Kenjinkai

(Del 1 de enero al 31 de diciembre de 2000)

Kenjinkai	Representante	Contenido de actividades
Argentina Fukuoka Kenjinkai	Yasuyoshi Nakano	Asamblea general ordinaria, Picnic, Reunión mensual, Servicios informativos a los socios, Elaboración de lista
Bolivia Fukuoka Kenjinkai	Hiroshi Tajima	Junta ordinaria del Consejo Directivo (6 veces al año), Ceremonia conmemorativa de la migración en San Juan, Asamblea ordinaria (2 veces al año), Intercambio con el Kenjinkai de Brasil
Belem Fukuoka Kenjinkai	Hiroto Nakashima	Asamblea general ordinaria, Fiesta de año nuevo, Reunión periódica (4 veces al año), Fiesta de despedida del año
Brasil Fukuoka Kenjinkai	Pedro Yano	Asamblea general ordinaria, Reunión conjunta de jefes de sedes locales y directores, Reunión amistosa con el becario de Fukuoka enviado a Brasil para prácticas agrícolas, Torneo de gateball bajo auspicios del Kenjinkai de Fukuoka, Ceremonia religiosa para el descanso del alma de los colonizadores, Examen de selección para las becas que ofrece la prefectura en 2001, Reunión amistosa en el bloque de Kyushu, Ceremonia conmemorativa tanto del nonagésimo aniversario de la migración de Fukuoka en Brasil como del septuagésimo aniversario de la fundación del Kenjinkai
Manaus Fukuoka Kenjinkai	Hideaki Eto	Asamblea general ordinaria (2 veces al año), Fiesta de año nuevo, Fiesta de despedida del año
Tome-Acu Fukuoka Kenjinkai	Hiroyuki Kato	Fiesta de año nuevo, Fiesta de despedida del año, Ceremonia conmemorativa del vigésimo quinto aniversario, Reunión en honor a los ancianos
Lethbridge Fukuoka Kenjinkai	Kazuo Nakamura	Junta ordinaria del Consejo Directivo (2 veces al año), Reunión de intercambio amistoso, Asamblea general ordinaria (despedida del año)
Toronto Fukuoka Kenjinkai	Suenori Tominaga	Asamblea general ordinaria (reunión amistosa), Junta ordinaria del Consejo Directivo (4 ó 5 veces al año), Ceremonia conmemorativa del vigésimo aniversario, Picnic, Undokai (fiesta deportiva)
Vancouver Fukuoka Kenjinkai	Keiji Shimizu	Servicios informativos a los socios, Reunión de año nuevo, Picnic (en verano), Concurso de canto (Kohaku)
Colombia Fukuoka Kenjinkai	Tsuyoshi Kuratomi	Asamblea general ordinaria, Junta ordinaria del Consejo Directivo (4 veces al año), Ceremonia religiosa para el descanso del alma de los difuntos, Fiesta de año nuevo, Viaje para estrechar la amistad, Undokai, Reunión en honor a los ancianos
México Fukuoka Kenjinkai	Hiromi Iida	Fiesta de primavera en el campo, Ceremonia conmemorativa del quincuagésimo aniversario

Kenjinkai	Representante	Contenido de actividades
Paraguay Fukuoka Kenjinkai	Mitsuru Kumagai	Asamblea general ordinaria, Junta del Consejo Directivo (cierre de libros, despedida del año, 2 veces al año), Ceremonia conmemorativa del cuadragésimo aniversario, Torneo amistoso de gateball (2 veces al año) Concurso de pesca
Club de Fukuoka en Perú	Enrique Baba	Asamblea general ordinaria (fiesta de año nuevo), Fiesta de año nuevo, Fiesta de despedida y bienvenida para becarios, Reunión de juegos (2 veces al año) Evento del Día de las Madres, Reunión en honor a los ancianos, Visita al asilo de ancianos
Hawaii Fukuoka Kenjinkai	Koichi Isayama	Asamblea general ordinaria (fiesta de año nuevo), Reunión informativa, Picnic
Hawaiiishima Fukuoka Kenjinkai	Curtis Matsui	Asamblea general ordinaria, Reunión amistosa, Ejecución de la actividad de fomento para los jóvenes del Kenjinkai
Kauai Fukuoka Kenjinkai	Norman Inoue	Asamblea general ordinaria, Junta ordinaria del Consejo Directivo (2 ó 3 veces al año), Fiesta de año nuevo, Ejecución de la actividad de fomento para los jóvenes del Kenjinkai, Picnic
Kona Fukuoka Kenjinkai	Masaru Deguchi	Asamblea general ordinaria, Junta ordinaria del Consejo Directivo, Reunión en honor a los ancianos
Nanka Fukuoka Kenjinkai	Eiichi Inouye	Asamblea general ordinaria (fiesta de año nuevo), Junta del Consejo Directivo (12 veces al año), Reunión de jóvenes y edad madura (12 veces al año), Picnic, Reunión para estrechar la amistad con la peña de los ancianos, Ceremonia religiosa para el descanso del alma de los difuntos, Visita al asilo de ancianos, Fiesta de despedida del año, Actividades de clubes (golf, pesca, crisantemo, karaoke, gateball)
San Francisco Fukuoka Kenjinkai	Takashi Matsuoka	Asamblea general ordinaria, Ceremonia conmemorativa del quincuagésimo aniversario, Ceremonia religiosa para el descanso del alma de los difuntos, Fiesta de año nuevo, Reunión en honor a los ancianos, Viaje de recreo
Seattle Fukuoka Kenjinkai	Yoshimi Tanaka	Asamblea general ordinaria, Junta del Consejo Directivo (4 veces al año), Fiesta de año nuevo y en honor a los ancianos, Viaje en autobús
Wanto Fukuoka Nikkeijinkai	Soichi Fujishima	Asamblea general ordinaria, Junta ordinaria del Consejo Directivo (3 veces al año), Ceremonia conmemorativa del quincuagésimo aniversario, Fiesta de año nuevo, Viaje de recreo

Convenção dos Representantes da Associação de Kenjinkai

Data/hora: 11 de Setembro de 2001, 10:00 - 12:00

Local: Grand Hyatt Fukuoka / The Grand Ball Room

Tema: 1. Sobre a situação das atividades da Associação de Kenjinkai

2. Sobre a gestão da Associação de Kenjinkai voltada para o Século 21

3. Sobre o local da próxima convenção

Participante: Representante de cada Associação de Kenjinkai 38 pessoas

<conteúdo do tema>

Tema 1. Sobre a situação das atividades da Associação de Kenjinkai (vide em anexo)

Tema 2. Sobre a gestão da Associação de Kenjinkai voltada para o Século 21

A discussão foi realizada restringindo-se em dois pontos, aqueles considerados necessários para a gestão benéfica da Associação de Kenjinkai.

1. Foi efetuada a troca de opiniões sobre a formação do sucessor. Segue-se abaixo o conteúdo.

(o status quo)

① Todos os países, as 21 Associações de Kenjinkai mostram a preocupação no que se refere a formação do sucessor para assumir a geração seguinte.

② Já se passaram cerca de 120 anos após o início da imigração da província de Fukuoka. Muitos dos imigrantes que atravessaram o mar já faleceram, e ou devido a avançada idade destes emigrantes, torna-se difícil a sua atuação como membro central dentro da Associação de Kenjinkai.

③ Com o número elevado dos descendentes japoneses que não falam a língua japonesa, e por não conviverem em ambiente que se sintam próximo ora ao Japão ou a Fukuoka, não participam das atividades da Associação de Kenjinkai, considerando como se a questão da Associação de Kenjinkai fosse um assunto alheio.

(sugestão para solucionar a situação atual)

① Não adianta dizer “estude o japonês” ou “participe das atividades da Associação de Kenjinkai”, se o próprio descendente de japonês não mostrar interesse. Poderá ser utilizado o sistema executado pela província de Fukuoka, como a tradicional bolsa de estudos para os descendentes de imigrantes (início em 1966) ou o recebimento de estadia de curto período (início em 1994), para assim atrair o interesse dos descendentes. Durante a permanência de um período estabelecido em Fukuoka, o descendente poderá ampliar a sua visão, adquirir experiência em várias atividades, como também, ter uma afeição a Fukuoka, através das atividades de intercâmbio juntamente com a população da região. O descendente, ao conhecer a sua origem, poderá criar o seu orgulho de ser nikkei e de ter a ligação com a província de Fukuoka. Assim, o descendente “com o orgulho”, terá a voracidade e pensar “quero estudar a língua japonesa”, “quero entender a cultura japonesa”. Tendo o “orgulho”, “a língua japonesa” não será mais um inpecílio. Muito pelo contrário, será reconhecida a sua importância como um fator imprescindível para o conhecimento mais profundo da cultura japonesa, podendo-se assim esperar que com a aprendizagem da língua japonesa vai aumentar a participação na Associação de Kenjinkai para.

② Deve se esforçar em construir uma Associação de Kenjinkai que possa atrair o interesse dos descendentes, planejando programas sociais, como seminário de formação de sucessores, como competições esportivas solicitando a cooperação dos ex-bolsistas.

③ Algumas Associações de Kenjinkai realizam as reuniões com o idioma que não é o japonês. Porém, mesmo assim, é preciso dar continuidade ao apelo pela importância da língua japonesa.

2. Foi também discutida sobre a questão da gestão da

Associação de Kenjinkai, a qual deverá ser executada de maneira ainda mais ampla e universal, para o fomento do intercâmbio internacional. O conteúdo é o seguinte.

(o status quo)

① Com a globalização que se desenvolve cada vez mais no Século 21, se o relacionamento de intercâmbio e cooperação for mantida apenas no tocante ao relacionamento vertical entre a província materna Fukuoka e as respectivas Associações de Kenjinkai, a Kenjinkai de Fukuoka não vai crescer como uma organização de fomento ao intercâmbio internacional.

② No passado, já foi realizado o intercâmbio organizado entre as Associações de Kenjinkai do Brasil e da Bolívia, como também entre os vizinhos, Seattle e Vancouver promovendo uma competição de músicas “kohaku”. Ainda assim, não são muitas as Associações de Kenjinkai que executam este intercâmbio horizontal.

(sugestão para solucionar a questão)

① Nas atividades comemorativas de cada Associação de Kenjinkai (como a comemoração de aniversário), poderia ser permitida a participação de outras Associações de Kenjinkai. Com estas novas oportunidades e locais de encontro, o vínculo vai se fortalecendo, permitindo assim maior abertura sem ter que se restringir apenas neste encontro da “Convenção Mundial”, o qual se realiza trienalmente.

② Não se reter apenas em intercâmbio humano. Será útil organizar os recursos humanos de cada Associação de Kenjinkai para poder estender em outros países, oportunidade de negócios e estudos, não se detendo apenas no relacionamento com a província materna.

③ Nesta era onde vivemos em regiões sem fronteiras, é preciso construir um forte network horizontal, para o fomento da compreensão mútua das Associações de Kenjinkai. E como no atual estágio, a língua comum entre as Associações de Kenjinkai incluído a província materna Fukuoka é a “língua japonesa”,

recomendamos o domínio da língua japonesa, porque o idioma é uma ferramenta para a comunicação.

(sumário)

Solicita-se maior esforço da província materna para amenizar as normas de seleção, para que se possa utilizar melhor os sistemas de bolsistas como o de recebimento de estadia de curto período. Ao mesmo tempo, as Associações de Kenjinkai também não teriam a obrigação de construir um ambiente favorável para que os descendentes possam se sentir mais próxima a província de Fukuoka? Como membro da Associação de Kenjinkai, como nikkei, vamos transmitir aos nossos filhos a importância e a qualidade da Associação de Kenjinkai, a qual tem a possibilidade da utilização de maneira diversificada.

Tema 3: Sobre o local da próxima Convenção.

Apesar de que dar a continuidade da realização da Convenção Mundial ser de acordo comum na convenção dos representantes, algumas Associações de Kenjinkai solicitaram que, mesmo que a “Convenção Mundial” não se realize a cada 3 anos, seria desejável ser organizado pela província materna, e podendo até ser a cada 5 anos. Porém, como a intenção da realização desta convenção era de “fazer o intercâmbio alternadamente entre as Associações de Kenjinkai”, deveria voltar aos seus princípios, e decidir qual a Associação de Kenjinkai irá organizar o próximo evento. “Chegando se a esta conclusão, e baseando na opinião de que devemos não sobrecarregar em termos econômicos como em termos de recursos humanos a Associação de Kenjinkai que vai organizar a próxima convenção”. A Associação de Kenjinkai de Vancouver recebeu a recomendação para realizar a próxima Convenção Mundial. Em resposta, a Associação de Kenjinkai de Vancouver anunciou que “fará o possível para poder organizar em sua região, porém, como ainda é preciso estudar vários fatores, não é possível dar a resposta de imediato. Vai levar de volta à sua Associação, para responder posteriormente.

Situação das atividades das Associações de Kenjinkai

(período de 1 de Janeiro de 2000 a 31 de Janeiro de 2000)

Associação de Kenjinkai	Representante	Conteúdo das atividades
Argentina Fukuoka Kenjinkai	Yasuyoshi Nakano	assembléia geral periódica / pique-nique reunião mensal periódica atividade de relações públicas aos membros associados / elaboração da lista de nomes
Bolívia Fukuoka Kenjinaki	Hiroshi Tajima	reunião ordinária da diretoria (6 vezes ao ano) cerimônia comemorativa de entrada como imigrante em San Juan reunião ordinária (2 vezes ao ano) intercâmbio com o Brasil Fukuoka Kenjinkai
Belém Fukuoka Kenjinkai	Hiroto Nakashima	assembléia geral periódica / festa de ano novo reunião ordinária (4 vezes ao ano) festa de fim de ano
Brasil Fukuoka Kenjinkai	Pedro Yano	assembléia geral periódica reunião geral com presidente / diretores das subsidiárias encontro dos estagiários agrícolas do Brasil enviados para Fukuoka competição de gate-ball organizado pela Associação de Kenjinkai de Fukuoka cerimônia de surfrágio / oração funeral em homenagem a memória dos exploradores exame de seleção de bolsistas kempí ano 2001 reunião do bloco Kyushu comomoração de 90 anos dos imigrantes da província de Fukuoka ao Brasil / cerimônia comemorativa dos 70 anos de fundação da Associação de Kenjinkai
Manaus Fukuoka Kenjinkai	Hideaki Eto	encontro periódico (2 vezes ao ano) festa de ano novo / festa de fim de ano
Tomé-Açu Fukuoka Kenjinjikai	Hiroyuki Kato	festa de ano novo / festa de fim de ano cerimônia comemorativa dos 25 anos reinião dos anciãos
Lethbridge Fukuoka Kenjinkai	Kazuo Nakamura	reunião ordinária da diretoria (2 vezes ao ano) reunião de confraternização assembléia geral periódica (festa de fim de ano)
Toronto Fukuoka Kenjinkai	Suenori Tominaga	assembléia geral periódica (reunião de confraternização) reunião ordinária da diretoria (4 a 5 vezes ao ano) cerimônia comemorativa dos 20 anos pique-nique / gincana esportiva
Vancouver Fukuoka Kenjinkai	Keiji Shimizu	atividade de relações públicas aos membros associados reunião de ano novo pique-nique (verão) competição de música "kohaku"
Colômbia Fukuoka Kenjinkai	Tsuyoshi Kuratomi	assembléia geral periódica reunião periódica da diretoria (4 vezes ao ano) cerimônia de surfrágio aos mortos festa de ano novo / viagem de confraternização / gincana esportiva / reunião dos anciãos
México Fukuoka Kenjinkai	Hiromi Iida	encontro de primavera ao ar livre comemoração dos 50 anos de fundação
Paraguai Fukuoka Kenjinkai	Mitsuru Kumagai	assembléia geral periódica reunião da diretoria (auditoria / festa de fim de ano / 2 vezes ao ano) cerimônia comemorativa dos 40 anos de fundação da Kenjinkai competição de confraternização de gate-ball competição de pesca

Associação de Kenjinkai	Representante	Conteúdo das atividades
Peru Fukuoka Clube	Enrique Baba	assembléia geral periódica festa de ano novo / festa de despedida e recebimento do estagiário festa de brincadeiras (2 vezes ao ano) homenagem ao dia das mães / reunião dos anciãos visita a casa de repouso dos anciãos
Hawaii Fukuoka Kenjinkai	Koichi Isayama	assembléia geral periódica (festa de ano novo) reunião de coordenação pique-nique
Hawaiiishima Fukuoka Kenjinkai	Curtis Matsui	assembléia geral periódica reunião de confraternização execução do projeto de formação dos descendentes da Associação de Kenjinkai
Kauai Fukuoka Kenjinkai	Norman Inoue	assembléia geral periódica reunião periódica da diretoria (2 a 3 vezes ao ano) festa de ano novo execução do projeto de formação dos descendentes da Associação de Kenjinkai pique-nique
Kona Fukuoka Kenjinkai	Masaru Deguchi	assembléia geral periódica reunião periódica da diretoria reunião dos anciãos
Nanka Fukuoka Kenjinkai	Eiichi Inouye	assembléia geral periódica (festa de ano novo) reunião da diretoria (12 vezes ao ano) reunião de jovens e de meia idade (12 vezes ao ano) pique-nique reunião de confraternização com a associação dos anciãos oração funeral em homenagem aos mortos visita a casa de repouso dos anciãos festa de fim de ano atividade dos clubes (competição de golfe, competição de pesca, grupo dos amantes de crisântemo, grupo de karaokê, grupo de gate-ball)
San Francico Fukuoka Kenjinkai	Takashi Matsuoka	assembléia geral periódica festa comemorativa dos 50 anos de fundação oração funeral em homenagem aos mortos festa de ano novo e festa dos anciãos viagem de bem-estar
Seattle Fukuoka Kenjinkai	Yoshimi Tanaka	assembléia geral periódica reunião da diretoria (4 vezes ao ano) reunião de ano novo e reunião dos anciãos viagem de ônibus
Wanto Fukuoka Nikkeijinkai	Soichi Fujishima	assembléia geral periódica reunião periódica da diretoria (3 vezes ao ano) cerimônia comemorativa dos 50 anos de fundação do Kenjinkai festa de ano novo viagem de bem-estar

県人会青年の集い

県人会青年の集い出席者名簿

海外県人会青年

福岡県人会名	氏名	性別	年齢	職業
アルゼンチン	松尾博見	男	19	学生
	津留口ベルト 浩二	男	27	弁護士州警事務官
ポリヴィア	藤井加奈子	女	24	学生
	八田俊作	男	40	農業
ペレン	小野原田 リカルド	男	32	講師
ブラジル	秋永 エリーザ	女	31	会社員
	福永 ミルトン	男	38	会社経営
	梶本 薫 アンジェリカ	女	25	学生
	西木戸 エジソン 幸治	男	28	学生
	岡谷 美世子 ルシアーナ	女	31	C I R (埼玉県)
	沢田 マルシア 千代子	女	29	会社員
	末次 クリスチーナ エライネ	女	25	学生
	角 健三	男	27	学生
	鈴木 章夫 セイモール	男	25	学生
	田中 幸恵 エリーザ	女	24	学生
	渡部 智 マルコス	男	28	学生
	山下 日砂斗 エルネスト	男	25	学生
	矢野 百合江	女	38	コイザス・ド・ブラジル文化協会代表
マナウス	江藤 かずみ	女	24	会社員
トメアス	橋本 豊	男	25	農業
バンクーバー	猪腰 美加	女	21	学生
	鈴木 市郎 ジーン	男	22	会社員
コロンビア	倉富 ウーゴ	男	24	学生
	竹上 ホセ アントニオ	男	38	エンジニア
メキシコ	飯田 イレネ 明子	女	38	演出家
	飯田 幸子	女	26	学生
	マリア テレサ ウジョア	女	36	歌手
パラグアイ	熊谷 奈美	女	26	第3区パラグアイ国裁判所職員
ペルー	原田 ロシオ	女	19	学生
	前田 ラウラ マルティナ	女	39	学生
	松藤 タミ	女	40	検査技師(病院)
コナ	新藤 隆之	男	25	ホテル勤務
	新藤 H アラン	男	23	学生
南加	川口 コニー	女	25	会社員
	竹内 デビット 純一	男	31	会社員
	上原 正太郎	男	26	学生
サンフランシスコ	才藤 千津子	女	43	研究助手
シアトル	青木 リリアン アケミ	女	30	会社員

県内在住青年

業 種	氏 名	性別	年齢	職 業
民間会社	上野 弘	男	36	西日本銀行
公務員	ウッドラフ ジョニー	男	25	A L T
公務員	大垣 香織	女	31	中学校英語科教員
農業青年	織田 利明	男	24	赤い大地の会
移住家族会子弟	桐 明 綾	女	29	ポルトガル語翻訳
民間会社	讃井 達則	男	40	福岡銀行
学 生	柴田 あづさ	女	26	九州大学大学院
団体職員	下川 まゆみ	女	26	青年海外協力協会
学 生	新宅 美樹	女	31	九州大学大学院
公務員	武濤 研二郎	男	40	県職員
農業青年	寺嶋 孝弘	男	41	赤い大地の会
移住家族会子弟	富重 敬宏	男	22	学 生
公務員	馬場 伸一	男	41	福岡市職員
公務員	ケビン マクマーン	男	26	C I R
民間企業	宮原 拓也	男	43	西日本新聞社
福岡青年会議所	毛利 文彦	男	35	毛利外科医院
民間会社	山口 裕之	男	26	福岡シティ銀行
団体職員	山下 亜樹	女	31	国際協力事業団
学 生	山之内 裕子	女	32	日本学術振興会(九州大学)
団体職員	渡辺 美穂	女	39	(財)福岡県国際交流センター

Participant list of Worldwide Kenjinkai Youth Meeting

Overseas

Name of Kenjinkai	Name	Sex	Age	Occupation
Argentina	Hiromi Matsuo	M	19	Student
	Roberto Koji Tsuru	M	27	Clark
Bolivia	Kanako Fujii	F	24	Student
	Syunsaku Hatta	M	40	Farmer
Belem	Recardo Ono Harada	M	32	Instructure
Brazil	Elisa Akinaga	F	31	Office Worker
	Milton Fukunaga	M	38	Office Manager
	Angelica Kaoru Kajimoto	F	25	Student
	Edson Koji Nishikido	M	28	Student
	Luciana Miyoko Okatani	F	31	CIR(Saitama Pref.)
	Chiyoko Marcia Sawada	F	29	Office Worker
	Elaine Christina Suetsugu	F	25	Student
	Kenzo Sumi	M	27	Student
	Seymor Akio Suzuki	M	25	Student
	Eliza Yukie Tanaka	F	24	Student
	Satoshi Marcos Watanabe	M	28	Student
	Ernesto Hisato Yamashita	M	25	Student
	Yurie Yano	F	38	Representative of "Associasao Cultural Coisas do Brazil"
Manaus	Kazumi Eto	F	24	Office Worker
Tome-Acu	Yutaka Hashimoto	M	25	Farmer
Vancouver	Mika Inokoshi	F	21	Student
	Gene Ichiro Suzuki	M	22	Office Worker
Colombia	Hugo Kuratomi	M	24	Student
	Jose Antonio Takegami	M	38	Engineer
Mexico	Irene Akiko Iida	F	38	Director
	Sachiko Iida	F	26	Student
	Maria Teresa Ulloa	F	36	Singer
Paraguay	Nami Kumagai	F	26	Clark
Peru	Rocio Harada	F	19	Student
	Laura Martina Harada	F	39	Student
	Tami Matsufuji	F	40	Testing technican
Kona	Takayuki Shindo	M	25	Hotel Worker
	Alan H. Shindo	M	23	Student
Nannka	Connie Kawaguchi	F	25	Office Worker
	David Junichi Takeuchi	M	31	Office Worker
	Shotaro Uehara	M	26	Student
San Francisco	Chizuko Saito	F	43	Assistant recercher
Seattle	Lilian Akemi Aoki	F	30	Office Worker

Domestic

Classification	Name	Sex	Age	Occupation (belong to:)
Private Enterprise	Hiroshi Ueno	M	36	Bank Clark of Nishi-Nippon Bank Ltd.
Public Official	Johnny Woodruff	M	25	Assistant Language Teacher (Fukuoka Pref.)
Public Official	Kaori Ogaki	F	31	English Teacher (Jounior High School)
Agliculture	Toshiaki Oda	M	24	Member of Dlube da Terra Roxa
Fukuoka Emigrant' Families Association	Aya Kiriake	F	29	Translator (Portuguese)
Private Enterprise	Tatsunori Sanui	M	40	Bank Clark of The Bank of Fukuoka Ltd.
Student	Azusa Shibata	F	26	Graduate school of Kyushu University
Organizational Staff	Mayumi Shimokawa	F	26	Staff of Japan Overseas Cooperative Association
Student	Miki Shintaku	F	31	Graduate school of Kyushu University
Public Official	Kenjiro Takenami	M	40	Fukuoka Prefectural Government
Agliculture	Takahiro Terashima	M	41	Member of Dlube da Terra Roxa
Fukuoka Emigrant' Families Association	Takahiro Tomishige	M	22	Undergraduate student
Public Official	Shinichi Baba	M	41	City hall of Fukuoka
Public Official	Kevin McMahon	M	26	CIR (Fukuoka Pref.)
Private Enterprise	Takuya Miyahara	M	43	Journalist of The Nishinippon Newspaper Co. Ltd.
Fukuoka Junior Chamber	Fumihiko Mori	M	35	Medical Corporation Keiga-kai Mori Surgical Hospital
Private Enterprise	Hiroyuki Yamaguchi	M	26	Bank Clark of Fukuoka City Bank
Organizational Staff	Aki Yamashita	F	31	Staff of Japan International Cooperation Agency
Student	Yuko Yamanouchi	F	32	Research fellow of the Japan Society for the Promotion of Science
Organizational Staff	Miho Watanabe	F	39	Staff of Fukuoka International Exchange Foundation

県人会青年の集い

日時：2001年9月11日 10:00～12:00

場所：グランド・ハイアット・福岡 ザ・グランド・ボールルーム

テーマ：21世紀における福岡県人会のネットワークづくり

出席者：コーディネーター 古谷 嘉章(九州大学大学院助教授)

海外県人会青年 38名

県内在住青年 20名

青年の集いの主な成果：

青年の集いでは、前半に3つに分かれてのグループ討議、後半に全体討議が行われた。海外及び県内在住の若者達が出会い、そして、21世紀の福岡県人会のネットワークづくりにあたり、新しい交流の扉が開かれることとなった。

全体討議での発言骨子：

(若者から見た県人会)

- ・若者にとって、県人会に加入する意味があるのか。(今の県人会の目的が、若い人達の目的と違う。)
- ・一世中心の県人会から若い人達の県人会へと、どのように変えていくか。
- ・日本の人達にもっと海外県人会の存在を知ってもらう必要がある。
- ・日本語のできない日系人に、どのようにして日本語を勉強するチャンスを作るのか、また日本語を学ぶ興味を持つためには、日本に興味を持つ必要がある。
- ・世代が替わり、現地の人と結婚したりしてだんだん日本人の血が薄くなってきたとき、このような人を県人会から排除していくと、県人会がやせ細ってしまうので、日系人社会、また、福岡県人会としてどうすべきなのか。

(これからの交流のありかた)

- ・若者のホームページを作成することにより、他の地域の若者の活動を知ることができ、交流に役立つ。
- ・ただホームページを作成するのではなく、そこで何をやるのかというビジョンが必要である。
- ・若者同士が交流を行うことにより、お互いを知るとともに、情報交換ができる。
- ・福岡県の青年を海外県人会員の家にもホームステイ(留学)させることにより、現地青年と交流ができるとともに、現地青年が福岡を学ぶことができる。

(コーディネーターのまとめ)

- ・県人会を21世紀のためにどう使うか。県人会の存続を義務と考えるのではなく、新しくどのように使えるだろうかと考えていく必要があるのではないか。
- ・インターネット、ホームページを活用することにより、今まで県人会というと、同じ場所にすんでる人たちの集まりであったものが、国の差や言葉の差を越えた新しいコミュニティが形成される可能性がある。
- ・日本人もむしろ日系人コミュニティの中においてどういうメンバーでありうるのかを考える必要がある。

Worldwide Kenjinkai Youth Meeting

Date and time: September 11, 2001 10:00 - 12:00

Venue: The Grand Ball Room in Grand Hyatt Fukuoka

Theme: Networking of the members of Fukuoka Kenjinkai in the 21st century.

Participants:

Coordinator: Yoshiaki Furuya (Assistant Professor, Graduate School of Kyushu University)

38 youth members of the overseas branches of Fukuoka Kenjinkai

20 youth residents in Fukuoka

Major achievement of the Youth Meeting:

In the meeting, the participants were divided into three groups to engage in discussions, and then a plenary meeting followed. The Youth Meeting proved to be an important venue for young members, both from Fukuoka and foreign countries, to foster friendly ties, and gave a momentum toward creation of a worldwide network of the Fukuoka kenjinkais in the twenty first century.

Opinions expressed in the plenary meeting:

(Views of young members on Kenjinkai)

- What is the merit of joining Fukuoka Kenjinkai for young people? The current purpose of Fukuoka Kenjinkai seems to be incompatible with the interest of young people.
- What measures should be taken to shift the focus from the first-generation emigrants to younger generations in the membership constitution of the overseas branches of Fukuoka Kenjinkai?
- It is necessary to give more publicity of the overseas branches of Fukuoka Kenjinkai to increase awareness of the Japanese.
- How can we give non-Japanese speaking Nikkeijin a chance to study Japanese? To encourage them to study Japanese, their interest in Japan should be stirred.

- With the lapse of time, the number of mix-blooded persons of Japanese origin has increased through marriage with local people. Excluding them from the membership of Fukuoka Kenjinkai will inevitably lead to the decline of Fukuoka Kenjinkai. In order to avoid such a situation, what measures should the Japanese society and Fukuoka Kenjinkai take?

(Measure to promote exchanges)

- Creating a website appealing to young people will be helpful in collecting information on what young people are doing in other parts of the world and in promoting their friendly interactions.
- We should not be content with merely creating a website; such a website should be created with a clear purpose.
- Young people should be given opportunities to enjoy friendly interactions to deepen mutual understanding and exchange information.
- Through a home-stay program in which young people living in Fukuoka stay at the homes of overseas members of Fukuoka Kenjinkai, they can interact with the local young people and give information on Fukuoka to them.

(Summary by the Coordinator)

- How can Fukuoka Kenjinkai contribute to the society in the 21st century? It is important for us to consider how to best use Fukuoka Kenjinkai in an innovative manner.
- By making use of the Internet website, Fukuoka Kenjinkai can grow from a local organization to a new global community that surpasses the barrier of language.
- The Japanese should consider how they can contribute to the Nikkeijin community as members of Fukuoka Kenjinkai.

Encuentro Juvenil de Kenjinkai

Fecha: 11 de septiembre de 2001, 10:00 - 12:00

Lugar: Salón "The Grand Ball Room", Hotel Grand Hyatt Fukuoka

Tema: Creación de la Red de Kenjinkai de Fukuoka para el siglo 21

Asistentes:

Coordinador: Yoshiaki Furuya (profesor adjunto de la Universidad de Kyushu)

38 jóvenes de los Kenjinkai de ultramar

20 jóvenes residentes de la Prefectura de Fukuoka

Resultados principales del Encuentro Juvenil:

Se han sostenido discusiones en tres grupos en la primera parte del Encuentro Juvenil, y en la segunda parte se ha llevado a cabo la reunión plenaria. Mediante las sesiones, se han encontrado los jóvenes tanto del exterior como residentes en la prefectura de Fukuoka, y se ha abierto la puerta a un nuevo intercambio a través de la creación de una red de Kenjinkai de Fukuoka para el siglo 21.

Puntos principales manifestados en la reunión plenaria:

(Kenjinkai visto por los jóvenes)

- ¿Tendrá sentido para los jóvenes el ser socios del Kenjinkai?

(El propósito del Kenjinkai actual es distinto a lo que pretenden los jóvenes.)

- ¿De qué manera se podría transformar el Kenjinkai, centrado en la primera generación, a una agrupación orientada hacia la juventud?

- Es necesario que la gente de Japón conozca más la existencia de los Kenjinkai en el extranjero.

- ¿Cómo se podría crear la oportunidad para que los Nikkei (ciudadanos de ascendencia japonesa) pudiesen estudiar el idioma japonés? Será menester que tomen interés por Japón para interesarse en el estudio del idioma.

- Las generaciones jóvenes se casan con las personas

originarias de sus correspondientes países, y se van debilitando los lazos de la sangre japonesa. Si estas personas quedan fuera de los Kenjinkai, éstos adelgazan. ¿Qué deberían hacer las comunidades Nikkei y los Kenjinkai de Fukuoka?

(Futuras formas del intercambio)

- La elaboración de la página de Internet relacionada con la juventud les permitirá conocer las actividades que desarrollan los jóvenes en otras regiones, lo cual contribuirá al fomento del intercambio entre ellos.
- No bastará sólo con elaborar dicha página de Internet, sino que será necesario formar una visión sobre lo que se pretende hacer allí.
- A través de un intercambio juvenil, podrán conocerse más mutuamente y realizar, a la vez, el intercambio de información.
- Si los jóvenes de la Prefectura de Fukuoka van a estudiar al extranjero y se hospedan en los hogares de los socios de los Kenjinkai de ultramar, se logrará el intercambio con la juventud local y ésta, a su vez, tendrá la oportunidad de conocer más a Fukuoka.

(Resumen del coordinador)

- ¿Cómo se podría sacar provecho del Kenjinkai para el siglo 21? Sería preciso que, en vez de asumir como nuestra la responsabilidad de hacer continuar al Kenjinkai, pensáramos cómo utilizarlo de nuevo.
- Hasta ahora, el Kenjinkai ha significado las reuniones que realizan las personas que viven en una misma región. Sin embargo, haciendo uso de la página de Internet, podríamos abrir un nuevo horizonte para construir una nueva comunidad, venciendo las diferencias de nacionalidad, idioma, etc.
- Los japoneses no deberían considerar ajenos a los extranjeros de ascendencia japonesa, sino que, por el contrario, deberían reflexionar en qué clase de integrantes podrían ser en su comunidad.

Encontro dos Jovens da Associação de Kenjinkai

Data/hora: 11 de Setembro de 2001, 10:00 - 12:00

Local: Grand Hyatt Fukuoka / The Grand Ball Room

Tema: Formação de network de Fukuoka Kenjinkai voltada ao Século 21

Participante:

Coordenador: Yoshiaki Furuya (Professor assistente da Universidade de Kyushu)

Jovens da Associação de Kenjinkai do Exterior
38 pessoas

Jovens residentes na província 20 pessoas

Principais resultados do Encontro dos Jovens:

Na reunião dos jovens foram realizadas discussões na parte da manhã, dividindo-se em três grupos, e à tarde, reunião geral de debates. O encontro entre os jovens residentes no exterior e na província visando a formação de um network da Associação de Kenjinkai de Fukuoka voltada para o século 21 abriram as portas para um novo intercâmbio.

Perfil dos comentários da reunião geral de debates:

(Associação de kenjinkai na visão dos jovens)

- Se existe algum significado para o jovem, no tocante a sua participação na Associação de Kenjinkai. (O objetivo da atual Associação de Kenjinkai difere aos objetivos dos jovens)
- Como mudar a Associação de Kenjinkai, como transferir a centralização dos isseis-primeira geração, para a geração dos jovens.
- É preciso fazer com que os japoneses saibam melhor sobre a existência da Associação de Kenjinkai do exterior.
- De que modo proporcionar a oportunidade do estudo da língua japonesa para os nikkeis que não dominam a língua japonesa, e ainda, para poder mostrar interesse em aprender a língua japonesa, é necessário ter também o interesse no Japão.
- Com o decorrer da sucessão das gerações, o sangue japonês vem se diluindo devido ao matrimônio dos descendentes com as pessoas dos países de sua residência. Se excluirmos estas pessoas da

Associação de Kenjinkai, a própria entidade vai se atenuar. Quais as medidas que devem ser tomadas pela sociedade nikkei como também pela Fukuoka Kenjinkai.

(Como deve ser o futuro intercâmbio)

- Através do levantamento de um home-page, os jovens poderão ter o conhecimento das atividades dos jovens de outras regiões, servindo como um meio de intercâmbio.
- É preciso ter uma visualização de o que fazer com o home-page, não adiantando apenas o seu levantamento.
- Através do intercâmbio entre os jovens, ambas as partes poderão se conhecer e fazer a troca de informações.
- Com a implantação do programa de home stay (estudante estrangeiro) aos jovens da província de Fukuoka nas residências dos membros da Associação de Kenjinkai do exterior, poderá ser feito o intercâmbio dos mesmos com os jovens da região receptora. E ainda, os jovens da região poderão aprender sobre Fukuoka.

(Conclusão do coordenador)

- Como utilizar a Associação de Kenjinkai em prol do Século 21. Não pensar que é uma obrigação conservar a Associação de Kenjinkai, e sim, seria necessário pensar em como utilizá-la de uma maneira renovada.
- Até então, ora quando se dizia Associação de Kenjinkai, era uma reunião de pessoas que residiam na mesma região. Todavia, através da introdução do internet como do home-page, será possível construir um novo meio de comunicação ultrapassando as diferenças de países e de idiomas.
- Inclusive os japoneses não devem pensar que a questão dos nikkeis não é de sua faculdade, muito pelo contrário, deverá pensar qual o seu posicionamento como membro desta comunidade.

新聞掲載記事

Newspaper Scrap

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）8月17日（金）

9月に開催される海外福岡県人会世界大会（2カ所）に併せて、本県から海外に移住した約5万人の歴史を紹介する写真展を初めて開催します。

◇期間 8月25日～31日
◇会場 エーデルワイス留米市ギャラリー（久留米市諏訪町）
◇九州会場
◇期間 9月3日～7日
◇会場 小倉北区役所市民ギャラリー（北九州小倉北大手門）

海外移住における福岡県人の軌跡
写真展開催

◇福岡会場
◇期間 9月10日～16日
◇会場 クラウド・ハイアット・福岡福岡市東区住吉
◇監事会場
◇期間 9月18日～21日
◇会場 飯塚コスモス（モン）展示ホール（飯塚市飯塚）
※入場無料。作品はA1サイズ約50点
◇問い合わせ 福岡県国際交流センター 092(725)9804
◇共通 第1回海外福岡県人会世界大会実行委員会

西日本新聞社

西日本新聞（夕刊） 平成13年（2001年）8月23日（木）



収穫されたコトコト豆をえいにかける農民。ブラジル福岡県人会提供

移民の暮らしぶり伝える

25日から写真展

十九世紀末～二十世紀、福岡県から海外へ移住した移民の暮らしぶりを伝える写真展「海外移住における福岡県人の軌跡」が、二十五日から県内四カ所で開催される。第1回海外福岡県人会世界大会が九月十日から、福岡市などで開かれるのを前に、同実行委と西日本新聞社が主催。

ブラジルなど世界各地の県人会から集めた約五十点が展示される。最も多く移住が盛ったブラジルで一九三〇年代、収穫されたコトコト豆をえいにかける農民の姿や、一月分の給料を買い出し顯家に戻す移民の後の姿など、移住後の暮らしぶりが伝わる。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。

福岡県からの海外移住は一八八五年、ハワイを皮切りに北米、中南米へと広がり、約五万人が移民。広島、津島、熊本県に依る多くの移民を生んだ。日韓は次の通り。

25日（久留米市・エーデルワイス留米市ギャラリー）▽9月3～7日（北九州会場）小倉北区役所市民ギャラリー▽10～16日（福岡市）クラウド・ハイアット・福岡▽18～21日（飯塚市）飯塚コスモス（モン）。入場無料。問い合わせは福岡県国際交流センター 092(725)9804。

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）8月26日（日）



海外移住の暮らしぶりを伝える写真展「海外移住における福岡県人の軌跡」

開拓風景など240点

海外移民の写真展始まる

海外に移住した福岡県野町のエーデルワイス留米市で開いている大正後期出身者の暮らしぶりを伝える写真展「海外移住における福岡県人の軌跡」が、二十五日から久留米市諏訪町エーデルワイス留米市で開かれる。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。

海外に移住した福岡県野町のエーデルワイス留米市で開いている大正後期出身者の暮らしぶりを伝える写真展「海外移住における福岡県人の軌跡」が、二十五日から久留米市諏訪町エーデルワイス留米市で開かれる。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）9月4日（火）

移住120年の歴史紹介

南米などの県出身者が写真展 ブラジル日系3世が案内



小倉北区役所のギャラリーで始まった「海外移住における福岡県人の軌跡展」



鈴木 兼夫さん

海外に移住した県出身者の約百二十一年に及ぶ移住の歴史を紹介する写真展「海外移住における福岡県人の軌跡」が、二十五日から県内四カ所で開催される。第1回海外福岡県人会世界大会が九月十日から、福岡市などで開かれるのを前に、同実行委と西日本新聞社が主催。

ブラジルなど世界各地の県人会から集めた約五十点が展示される。最も多く移住が盛ったブラジルで一九三〇年代、収穫されたコトコト豆をえいにかける農民の姿や、一月分の給料を買い出し顯家に戻す移民の後の姿など、移住後の暮らしぶりが伝わる。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。移住の歴史を伝える。

福岡県からの海外移住は一八八五年、ハワイを皮切りに北米、中南米へと広がり、約五万人が移民。広島、津島、熊本県に依る多くの移民を生んだ。日韓は次の通り。

25日（久留米市・エーデルワイス留米市ギャラリー）▽9月3～7日（北九州会場）小倉北区役所市民ギャラリー▽10～16日（福岡市）クラウド・ハイアット・福岡▽18～21日（飯塚市）飯塚コスモス（モン）。入場無料。問い合わせは福岡県国際交流センター 092(725)9804。

同展は県内四市巡回で開催され、北九州市での開催は久留米市に次いで二カ所目。今月十日から福岡市で、同十八日からは飯塚市で開催される。

開場時間は午前九時から午後五時までで、最終日の七日は正午まで。

同展は県内四市巡回で開催され、北九州市での開催は久留米市に次いで二カ所目。今月十日から福岡市で、同十八日からは飯塚市で開催される。

newspaper scrap

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）9月5日（水）

海外移住120年の歴史たどる

小倉北区役所ギャラリーで写真展



小倉北区役所のギャラリーで始まった「海外移住における福岡県人の軌跡展」

海外に移り住んだ県民の約百二十年に及ぶ移住の歴史を伝える写真展「海外移住における福岡県人の軌跡展」が、福岡県海外県人会世界大会実行委、西日本新聞社主催で三日、小倉区大手町の小倉北区役所一階ギャラリーで始まった。入場無料、七日まで。

9カ国から24点出品 ブラジル日系3世が案内

四月に初来日した鈴木さんは「日本と海外の歴史をたどる」をテーマとして、ブラジル、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、フランス、ドイツ、イタリアの9カ国から24点の写真を出品する。案内役は、ブラジルに在住する日系3世の鈴木さん。



鈴木 肇夫さん

四月に初来日した鈴木さんは「日本と海外の歴史をたどる」をテーマとして、ブラジル、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、フランス、ドイツ、イタリアの9カ国から24点の写真を出品する。案内役は、ブラジルに在住する日系3世の鈴木さん。

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）9月6日（木）

若い世代「日本は身近な外国」 海外県人会の 今後考えたい



海外福岡県人会世界大会で帰国
ブラジル在住の加藤さん

海外福岡県人会世界大会で帰国した加藤さんは、若い世代に「日本は身近な外国」として、海外移住の歴史を伝える。加藤さんは、ブラジルに在住する日系3世の加藤さん。

西日本新聞（朝刊） 平成13年（2001年）9月5日（水）

10日から海外福岡県人会世界大会 11カ国300人故郷で交流

海外移住の歴史を伝える「海外移住における福岡県人の軌跡展」が、福岡県海外県人会世界大会実行委、西日本新聞社主催で三日、小倉区大手町の小倉北区役所一階ギャラリーで始まった。入場無料、七日まで。

newspaper scrap

西日本新聞 (朝刊) 平成13年 (2001年) 9月11日 (火)

海外移住の軌跡 パネルで紹介

博多区 開墾風景や暮らしぶり



十九世紀末から二十世紀区住吉のランドハイ紀にかけて海外移住したアット福岡で培った開墾出身者の暮らしぶり写真、県内巡回展示会を紹介する写真展「海目」入場無料、十六日までの移住に関する福岡県で、会場はエントランスホ

西日本新聞 (朝刊) 平成13年 (2001年) 9月11日 (火)

母眠るブラジルへ

日本に残された父の遺骨 43年ぶり帰国



久々の日本家族とついで宮崎参りした(左)とマナツから同じく日本来た世の江藤かずよさん

福岡市で十日始まった第四回海外福岡県人会世界大会には、県出身の移居約三百人が参加。ブラジル・マナツ市在住の宮崎参子さん(右)と母井出出身は、アマゾン開拓に因って以来、四十三年ぶりに祖国の土を踏んだ。愛の深い「白」飯を食べて感無量、大会後は日本に残された父の遺骨を、母が眠るブラジルの大地に持ち帰る。

福岡市で十日始まった第四回海外福岡県人会世界大会には、県出身の移居約三百人が参加。ブラジル・マナツ市在住の宮崎参子さん(右)と母井出出身は、アマゾン開拓に因って以来、四十三年ぶりに祖国の土を踏んだ。愛の深い「白」飯を食べて感無量、大会後は日本に残された父の遺骨を、母が眠るブラジルの大地に持ち帰る。

西日本新聞 (朝刊) 平成13年 (2001年) 9月11日 (火)

11カ国から300人参加

福岡市 海外県人会が世界大会



福岡市で開かれた第4回海外福岡県人会世界大会記念式典

海外へ移住、赴任した夢は世界へを言葉に、福岡出身者でつくる海外福岡県人会の第四回世界大会(同実行委員会主催)が、福岡市内のホテルで行われた。「ルーツは福岡」をテーマ、県人会の在り方を

を討論し、地元関係者との交流を深める。式典では、因縁の地で他界した人々に感謝した後、大会長の麻生隆福岡県知事が「世代交代が進むが県人会と福岡県とのつながりをどう維持発展させていくかがテーマ。新しい世界との流の扉を開きかけたい」とあいさつ。

西日本新聞 (朝刊) 平成13年 (2001年) 9月12日 (水)

若者の減少に危機感

9カ国から80人出席

福岡市



「県費留学生をもっと受け入れてほしい」との要望が聞かれた。同じホテルでは、県人会と県内住青年との交流会があり、ホームパーティー作成し交流を深めるなどのアイデアが出た。移住三世、四世以降の時代に向け、後継者育成など県人会運営の課題について話し合った。

「県費留学生をもっと受け入れてほしい」との要望が聞かれた。同じホテルでは、県人会と県内住青年との交流会があり、ホームパーティー作成し交流を深めるなどのアイデアが出た。移住三世、四世以降の時代に向け、後継者育成など県人会運営の課題について話し合った。

カボチャの塩汁をすすり、トマトやキノコを拓殖一師で入ったが、約現されてははずの家も道もない。特参したみそやしょうゆもやがて底をつく。慣れない気候と重労働に、母目人娘のたれかがマナツで死んでしまった。母は既に迎立し、夫は母のそばに埋葬しあけ

ふるさと訪問

[2001年9月18日・19日]

Visiting Hometown



9月18日
ボリビア福岡県人会 仁田原収三郎氏・
宮園英雄氏、出身地黒木町を訪問

黒木町

Kuroki-machi



左から梅野政義助役
横溝彌太郎町長
仁田原収三郎氏
宮園英雄氏



9月19日
ボリビア県人会 田島浩司会長、出身地黒木町を訪問
手前 横溝彌太郎町長(左側)
梅野政義助役(右側)

新宮町

Shingu-machi

9月19日
トロント福岡県人会 富永季徳会長、
出身地新宮町を訪問
左から鴨尾明子新宮小学校長
富永季徳氏
中野昌昭町長
安河内逸敏教育長



寄せ書き

Collection of Impromptu Writngs

アルゼンチン福岡県人会
Argentina

ボリビア福岡県人会
Bolivia

ベレン福岡県人会
Belem

ブラジル福岡県人会
Brazil

マナウス福岡県人会
Manaus

トメアス福岡県人会
Tome-Acu

レスブリッジ福岡県人会
Lethbridge

トロント福岡県人会
Toronto

バンクーバー福岡県人会
Vancouver

香港福岡県人会
Hong Kong

コロンビア福岡県人会
Colombia

インドネシア福岡県人会
Indonesia

第4回 海外福岡県人会世界大会

- ルーツは福岡 夢は世界へ -
- Our Roots are in Fukuoka, Our Dreams are Worldwide -



4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention

2001. 9. 10 in Fukuoka

福岡県知事 麻生 渡
Governor, Fukuoka Prefecture

福岡県議会議長 蔵内 勇夫
Chairman, Fukuoka Prefectural Assembly

メキシコ福岡県人会
Mexico

パラグアイ福岡県人会
Paraguay

ペルー福岡クラブ
Peru

ハワイ福岡県人会
Hawaii

ハワイ島福岡県人会
Hawailshima

カウアイ福岡県人会
Kauai

コナ福岡県人会
Kona

南加福岡県人会
Nanka

サンフランシスコ福岡県人会
San Francisco

シアトル福岡県人会
Seattle

湾東福岡日系人会
Wanto



記念品

Memorial



博多織テーブルセンター

● memorial ●



籃胎漆器 隅丸 盆



博多織 名刺入



2色ボールペン



ゲートボール大会
参加記念メダル



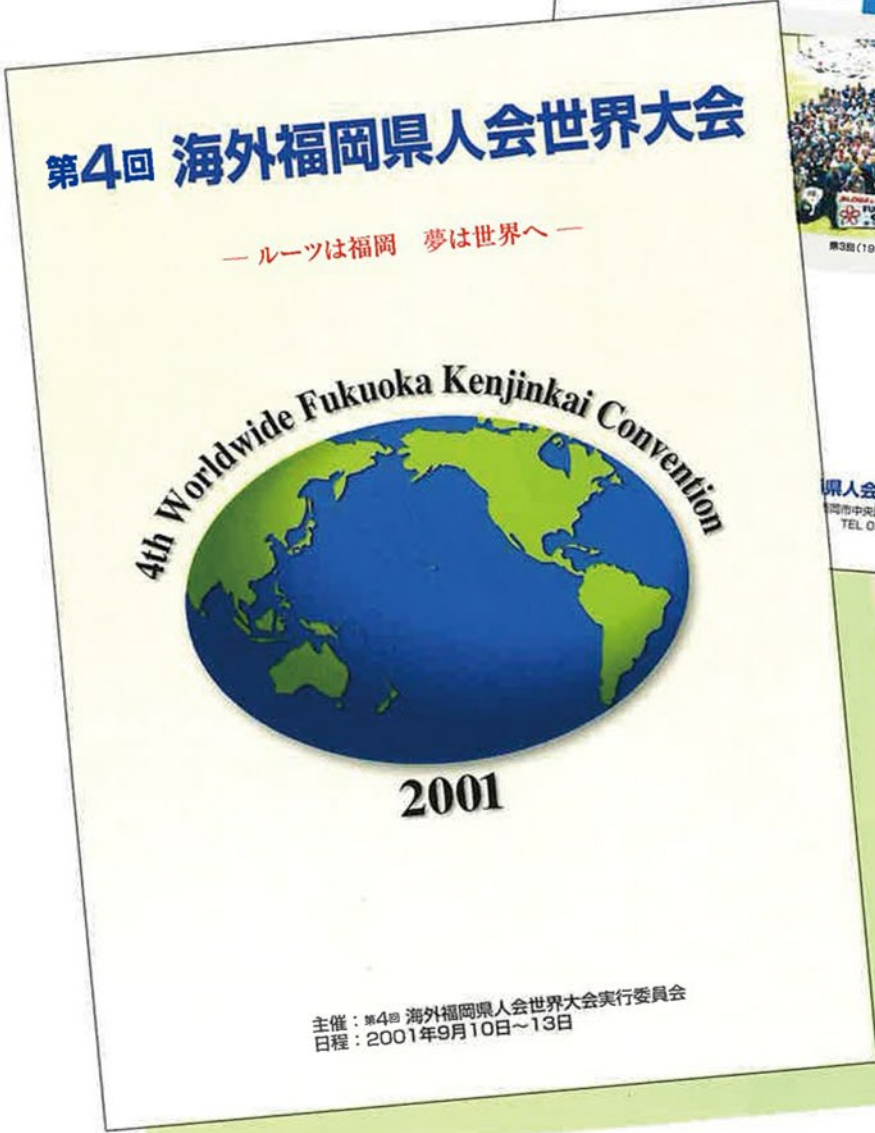
籃胎漆器 茶筒

広報

Public Relations

パンフレット

Pamphlet



public relations

ホームページ

Home Page



アクロス福岡(事務局建物)

観福岡県国際交流センター

- 所在地 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号(アクロス福岡内)
- こくさいひろば(情報課) 3F 開館時間 午前10時～午後7時(毎週月曜日)祝日に当たる日はその翌日、年末年始は休み
- TEL (092) 725-9200 ●FAX (092) 725-9206
- 総務課(総務課) 4F 午前9時30分～午後5時45分(土曜日・日曜日・祝日・年末年始は休み)
- TEL (092) 725-9204 ●FAX (092) 725-9205
- こくさいひろば(情報課) mail info@kokusaihiroba.or.jp
- 交流課 mail exchange@kokusaihiroba.or.jp
- 総務課(総務課) mail general@kokusaihiroba.or.jp

Welco

第4回海外福岡県人会世界大会

～ルーツは福岡 夢は世界へ～

The 4th WORLDWIDE FUKUOKA KENJIN CONVENTION

第4回海外福岡県人会世界大会が
2001年9月10日(月)～13日(木)
の4日間で開催されます。

参加申し込みはここからです！

第4回海外福岡県人会世界大会を
主催する実行委員会が発足しました。
(2/28)

発足委員会の活動が盛り上がるので、
お知らせさせていただきます。

情報は随時更新します。
更新日：01/04/20

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会事務局

〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 (社) 福岡国際交流センター内
TEL +81-92-725-9204 FAX +81-92-725-9205

URL <http://www.kokusaihiroba.or.jp/newIndex.htm> E-mail general@kokusaihiroba.or.jp

このホームページは総員100名の手作りです。

Home

第4回海外福岡県人会世界大会

- 大会の目的
海外県人会との交流を行うことにより、県人会の活性化を図るとともに県人会相互及び県との人的ネットワークの構築を図る。
- 開催時期
平成13年(2001年)9月10日(月)～13日(木)の4日間
- 執行体制
主 催： 第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会
後 援： 第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会事務局
(社) 福岡国際交流センター内に設置
- 行事日程

期 日	区 分	内 容
9月10日(月)	午 後	知事・議員内閣、記念式典、写真展オープニングセレモニー 歓迎レセプション
9月11日(火)	午 前	県人会代表者会議、県人会理事の集い
	午 後	歓迎晩餐会、交流会
9月12日(水)	終 日	市内視察(3コースを予定)
9月13日(木)	終 日	オプション(ゲートボール等)

●9月10日から12日までの行事への参加はすべて無料です。
13日のオプションについては、ゴルフツアー代が無料となります。

Home

public relations

チラシ

Leaflet



『第4回海外福岡県人会世界大会』

募金協力のお願い

海外へ移住した福岡県出身者でつくる海外の福岡県人会(9カ国21団体)の交流会が2001年9月、はじめてふるさと福岡で開催されます。

- ★過去の大会
 第1回 1992年(平成4年)
 ロスアンゼルス(アメリカ)
 第2回 1995年(平成7年)
 サンパウロ(ブラジル)
 第3回 1998年(平成10年)
 ホノルル(アメリカ・ハワイ)

福岡県から海外へ移住した方々は約5万5千人。

福岡県から海外に移住された方々は全国で4番目に多く、戦前・戦後を通じて約5万5千人にも達しています。これらの方々は異国にて大変な御苦労を重ねながらも、それぞれの国々の発展に大きく貢献されてきました。さらに「福岡県人会」を各国で組織しふるさと・福岡県と移住先国との架け橋として大きな役割を果たしています。

「母県」福岡への里帰りにご協力下さい。

この世界大会の参加者の渡航費、滞在費については自己負担となっていますが、国によってはその費用は年取分に相当するなど、その負担は決して小さくありません。また将来、県人会をますます発展させていくためには、移住者の次代を担う3世、4世の若い世代にも福岡を知ってもらい、ふるさととの絆を深めることも非常に大切です。このため、福岡をまだ訪れた事のない若者たちをはじめ、一人でも多くの海外県人会の方々に参加していただけるよう、その渡航費を助成するため募金を行っています。どうぞ皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

第4回海外福岡県人会世界大会募金推進委員会

福岡県観光連盟/福岡カナダ協会/福岡日米協会
 福岡ブラジル協会/福岡県海外移住家族会/赤い大地の会

【申込方法】

専用の振込用紙により振り込んでいただくか、下記指定銀行へお振り込みください。

- ◎福岡銀行天神町支店 普通 1785835
 - ◎西日本銀行天神町支店 普通 1538044
 - ◎福岡シティ銀行天神支店 普通 1366656
 - ◎筑邦銀行福岡支店 普通 1535134
 - ◎福岡中央銀行博多駅東支店 普通 193848
- ※振り込み手数料は必要ありません。

【お問い合わせ先】

(財)福岡県国際交流センター
 第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会事務局
 TEL:092(725)9204



大会参加者

Participants

大会参加者内訳

国名	所属別	参加者数
アルゼンチン	アルゼンチン福岡県人会	4
ボリヴィア	ボリヴィア福岡県人会	6
ブラジル	ベレン福岡県人会	6
	ブラジル福岡県人会	78
	マナウス福岡県人会	2
	トマス福岡県人会	3
カナダ	レスブリッジ福岡県人会	1
	トロント福岡県人会	1
	バンクーバー福岡県人会	2
中国	香港福岡県人会	1
コロンビア	コロンビア福岡県人会	4
インドネシア	インドネシア福岡県人会	1
メキシコ	メキシコ福岡県人会	16
パラグアイ	パラグアイ福岡県人会	4
ペルー	ペルー福岡クラブ	3
タイ	バンコック福岡県人会	1
アメリカ	ハワイ福岡県人会	33
	ハワイ島福岡県人会	28
	カウアイ福岡県人会	16
	コナ福岡県人会	6
	南加福岡県人会	32
	サンフランシスコ福岡県人会	20
	シアトル福岡県人会	11
	湾東福岡日系人会	13
その他	国内在住海外福岡県人	22
海外合計		314
国内	実行委員会	12
	後援団体	9
	国会議員	13
	福岡県議会	64
	福岡県	44
	市町村・市町村議会	41
	国内福岡県人会	8
	企業・団体	44
	国際交流団体	6
	福岡県海外移住家族会	99
	その他	93
	国内合計	
総計		747

海外県人参加者リスト

〈アルゼンチン福岡県人会〉 参加者数 4名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	副会長	津留 浩	Tsuru Hiroshi	山門郡三橋町
2		大塚 ネストル	Otsuka Nestor	アルゼンチン
3		津留 ロベルト 浩 二	Tsuru Roberto Koji	山門郡三橋町
4		松尾 博見 ルーベンレオナルド	Matsuo Hiromi Ruben Leonardo	アルゼンチン

〈ボリヴィア福岡県人会〉 参加者数 6名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	会長	田島 浩司	Tajima Hiroshi	八女郡黒木町
2		仁田原 収三郎	Nitabara Syuzaburo	八女郡黒木町
3		八田 幸子	Hatta Sachiko	八女郡黒木町
4		八田 俊作	Hatta Syunsaku	八女郡黒木町
5		藤井 やす子	Fujii Yasuko	朝倉郡朝倉町
6		宮園 英雄	Miyazono Eio	八女郡黒木町

〈ベレン福岡県人会〉 参加者数 6名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	会長	小野 重善	Ono Shigeyoshi	福岡市博多区
2	名誉会長	筒井 茂利	Tsutsui Shigetoshi	嘉穂郡嘉穂町
3		小野 トシ子 ウラーナ	Ono Toshiko Urana	福岡市博多区
4		小野 原田 リカルド	Ono Harada Ricardo	福岡市博多区
5		小野 やすこ	Ono Yasuko	福岡市博多区
6		小野 みちこ	Ono Michiko	福岡市博多区

〈ブラジル福岡県人会〉 参加者数 78名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	会長	矢野 ペードロ	Yano Pedro	浮羽郡浮羽町
2	副会長	岡谷 忠	Okatani Tadashi	嘉穂郡稲築町
3	副会長	行徳 直幸	Gyotoku Naoyuki	浮羽郡田主丸町
4	副会長	宗 友夫	So Tomoo	福岡市西区
5	副会長	福島 正登	Fukushima Masato	浮羽郡田主丸町
6	顧問	高 清	Koh Kiyoshi	朝倉郡三輪町
7	相談役	竹内 勲	Takeuchi Isao	北九州市戸畑区
8		秋 永 エリザ	Akinaga Elisa	ブラジル
9		荒田 田鶴子	Arata Tazuko	飯塚市
10		井手 エリザ	Ide Elza	ブラジル
11		井手 ラウラ	Ide Laura	ブラジル
12		井手 司	Ide Tsukasa	ブラジル

NO.	役職	氏名	出身地
13		大坪 聖治	Otubo Masaharu
14		岡谷 香代子	Okatani Kayoko
15		鹿毛 忠	Kage Tadashi
16		鹿毛 春枝	Kage Harue
17		梶本 茂雄	Kajimoto Shigeo
18		行徳 志保子	Gyotoku Shihoko
19		行徳 眞利哉	Gyotoku Maria
20		行徳 万里男	Gyotoku Mario
21		行徳 由紀子	Gyotoku Yukiko
22		国武 英治	Kunitake Hideharu
23		栗原 節子	Kurihara Setsuko
24		高 綾子	Koh Ayako
25		高 数吉	Koh Kazuyoshi
26		高 みちこ	Koh Mitiko
27		小坪 満	Kotsubo Mitsuru
28		小西 香月	Konishi Katsuki
29		重松 昭親	Shigematsu Akichika
30		篠崎 イチ	Shinozaki Ichi
31		篠崎 永滋	Shinozaki Eiji
32		白石 一資	Shiraishi Kazoshi
33		白石 睦子	Shiraishi Mitsuko
34		大力 隆文	Dairiki Takafumi
35		高橋 春子	Takahasi Haruko
36		田籠 清	Tagomori Kiyoshi
37		立石 松男	Tateishi Matsuo
38		建部 治子	Tatebe Haruko
39		盾元 高貴	Tatemoto Koki
40		盾元 マルリー	Tatemoto Marli
41		盾元 良江	Tatemoto Yoshie
42		田中 公	Tanaka Isao
43		田中 恵子	Tanaka Keiko
44		谷山 千代記	Taniyama Tiyoki
45		谷山 ヒトミ	Taniyama Hitomi
46		玉世勢 和子	Tamayose Kazuko
47		玉世勢 幸俊	Tamayose Kochun
48		ナガエ ノブエ	Nagae Nobue
49		永島 正哉	Eishima Masaya
50		永島 美恵子	Eishima Mieko
51		永島 芳子	Eishima Yoshiko
52		永島 ラウロ	Eishima Lauro
53		西部 次男	Nishibe Tsugio

NO.	役職	氏名	出身地
54		早川 末香 Hayakawa Sueka	ブラジル
55		林 繁男 Hayashi Shigeo	北九州市
56		平田 エステラ Hirata Estera	ブラジル
57		平田 セリーナ Hirata Celina	ブラジル
58		平田 正 マノエル Hirata Tadashi Manoel	三井郡大刀洗町
59		平田 チオコ Hirata Tioko	ブラジル
60		深井 正美 Fukai Masami	ブラジル
61		深井 陽一 Fukai Yoiti	秋田県
62		福島 静子 Fukushima Shizuko	浮羽郡
63		福永 ミルトン Fukunaga Milton	ブラジル
64		別府 すみ子 Beppu Sumiko	ブラジル
65		別府 ますみ マリザ Beppu Masumi Marisa	ブラジル
66		別府 実 Beppu Minoru	ブラジル
67		別府 安之 Beppu Yasuyuki	浮羽郡吉井町
68		宮沢 和枝 Miyasawa Kasue	広島県
69		宮沢 八郎 Miyasawa Hatiro	広島県
70		矢野 アウグスト 晴夫 Yano Augusto Haruo	浮羽郡浮羽町
71		矢野 エリザベッテ Yano Erizabete	浮羽郡浮羽町
72		矢野 勝喜 Yano Katsuki	浮羽郡浮羽町
73		矢野 かよ子 Yano Kayoko	浮羽郡浮羽町
74		矢野 マルシア ゆりえ Yano Marcia Yurie	浮羽郡浮羽町
75		山口 政子 Yamaguti Masako	八女郡黒木町
76		山口 定次 Yamaguti Sadaji	八女郡黒木町
77		渡部 一誠 Watanabe li-sei	久留米市
78		沢田 マルシア 千代子 Sawada Marcia Chiyoko	ブラジル

〈マナウス福岡県人会〉 参加者数 2名

NO.	役職	氏名	出身地
1	代表	宮崎 泰美子 Miyazaki Tamiko	嘉穂郡嘉穂町
2		江藤 かずみ Eto Kazumi	ブラジル

〈トマス福岡県人会〉 参加者数 3名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	加藤 広行 Kato Hiroyuki	山門郡山川町
2		橋本 常年 Hashimoto Tsunetoshi	三井郡大刀洗町
3		橋本 豊 Hashimoto Yutaka	三井郡大刀洗町

〈レスブリッジ福岡県人会〉 参加者数 1名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	中村 和郎 Nakamura Kazuo	福岡市

〈トロント福岡県人会〉 参加者数 1名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	富永季徳	Tominaga Suenori 糟屋郡新宮町

〈バンクーバー福岡県人会〉 参加者数 2名

NO.	役職	氏名	出身地
1	代表	猪腰洋三	Inokoshi Hiromi 北九州市
2		鈴木市郎 ジーン	Suzuki Ichiro Gene 福岡市

〈香港福岡県人会〉 参加者数 1名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	若松浩	Wakamatsu Hiroshi 宗像市

〈コロンビア福岡県人会〉 参加者数 4名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	倉富剛	Kuratomi Tsuyoshi 浮羽郡田主丸町
2		新地学	Shinchi Manabu 宮崎県
3		新地 オフェリア	Shinchi Oferia 久留米市
4		竹上 ホセ アントニオ	Takegami Jose Antonio 浮羽郡田主丸町

〈インドネシア福岡県人会〉 参加者数 1名

NO.	役職	氏名	出身地
1	代表	末永志津雄	Suenaga Shizuo 田川市

〈メキシコ福岡県人会〉 参加者数 16名

NO.	役職	氏名	出身地
1	顧問	飯田利明	Iida Toshiaki 久留米市
2	副会長	須賀貞良	Suga Sadayoshi 浮羽郡吉井町
3	相談役	堤敬一	Tsutsumi Keiichi 柳川市
4	相談役	飯田博見	Iida Hiromi 久留米市
5	相談役	大熊正巳	Okuma Masami 浮羽郡田主丸町
6		飯田イレネ 明子	Iida Irene Akiko 久留米市
7		飯田千代子	Iida Chiyoko 久留米市
8		佐藤晃	Sato Akira 三井郡大刀洗町
9		佐藤カルメン	Sato Carmen 三井郡大刀洗町
10		羽山恭子	Hayama Kyoko 柳川市
11		羽山洋平	Hayama Yohei 柳川市
12		平田清	Hirata Kiyoshi 三井郡大刀洗町
13		平田美津子	Hirata Mitsuko 三井郡大刀洗町
14		マリアテレサ ウジョア アレバレス	Maria Teresa Ulloa Alvarez メキシコ
15		吉開邦男	Yoshikai Kunio 久留米市
16		吉開忠	Yoshikai Tadashi 久留米市

〈パラグアイ福岡県人会〉 参加者数 4名

NO.	役職	氏名		出身地
1	会長	熊谷 満	Kumagai Mitsuru	朝倉郡杷木町
2		熊谷 奈美	Kumagai Nami	朝倉郡杷木町
3		熊谷 美絵子	Kumagai Mieko	八女郡上陽町
4		玉井 真砂子	Tamai Masako	北九州市

〈ペルー福岡クラブ〉 参加者数 3名

NO.	役職	氏名		出身地
1	顧問	馬場 エンリケ	Baba Enrique	八女郡
2		原田 ロシオ	Harada Rocio	山門郡
3		松藤 タミ	Matsufuji Tami	山門郡

〈バンコック福岡県人会〉 参加者数 1名

NO.	役職	氏名		出身地
1	代表	増崎 有紀	Masuzaki Yuki	福岡市

〈ハワイ福岡県人会〉 参加者数 33名

NO.	役職	氏名		出身地
1	副会長	セキヤ レイモンド	Sekiya Raymond	朝倉郡
2		アカシ ノブエ	Akashi Nobue	久留米市
3		イトウ キャロル ミヨコ	Ito Carol Miyoko	田川市
4		イトウ ハリー ヨシオ	Ito Harry Yoshio	田川市
5		オダ ノボル	Oda Noboru	久留米市
6		カツモト チャールズ	Katsumoto Charles	糸島郡
7		カツモト メイ	Katsumoto Mae	糸島郡
8		キノシタ サダコ	Kinoshita Sadako	アメリカ
9		コバタ デビット	Kobata David	築上郡椎田町
10		コバタ ハナエ	Kobata Hanae	築上郡椎田町
11		セキヤ マーベル サチコ	Sekiya Mabel Sachiko	朝倉郡
12		ソラ グレイディーズ	Sora Grady	アメリカ
13		タカバ イディス	Takaba Edith	田川市
14		タナカ ヒサシ	Tanaka Hisashi	久留米市・三井郡
15		タナカ マーシャル	Tanaka Mashall	浮羽郡田主丸町
16		ナカソノ ローラ T.	Nakasono Laura T.	築上郡
17		ニシダ アイリーン	Nishida Irene K	アメリカ
18		ノナカ ゴロー	Nonaka Goro	八女市
19		ハヤシダ バーニス	Hayashida Bernice	朝倉郡
20		ハヤシダ ミチヒコ	Hayashida Michihiko	朝倉郡
21		ハラダ ハルエ	Harada Harue	久留米市
22		フジサキ トシコ	Fujisaki Toshiko	糸島郡二丈町
23		フジサキ ヒトシ	Fujisaki Hitoshi	糸島郡二丈町

● material ●

NO.	役職	氏名	出身地	
24		ハウ レン ロレーン	Hew Len Lorene	アメリカ
25		モリモト アイリーン サエコ	Morimoto Eileen Saeko	アメリカ
26		ヤマグチ ヨシ	Yamaguchi Yoshi	久留米市
27		ヤマサキ ベティ フサエ	Yamasaki Betty Fusae	アメリカ
28		ユエン ジャネット	Yuen Jeanette	久留米市・三井郡
29		ヨコオウジ イワオ	Yokooji Iwao	糟屋郡新宮町
30		ヨコオウジ ダグラス	Yokooji Douglas	糟屋郡新宮町
31		ヨコオウジ ヨネコ	Yokooji Yoneko	糟屋郡新宮町
32		ヨシムラ メイ	Yoshimura Mae	三井郡
33		リー カリアンヌ	Lee Carianne	アメリカ

〈ハワイ島福岡県人会〉 参加者数 28名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	前会長	箱田 ミルトン	Hakoda Milton	福岡市
2	元会長	前田 佐一	Maeda Saichi	福岡県
3		アベ スタンリー	Abe Stanley	福岡県
4		アベ パトリシア	Abe Patricia	高知県
5		イセモト シュンジ	Isemoto Shunji	広島県
6		イセモト ベアトリス	Isemoto Beatrice	広島県
7		高崎 春雄	Takasaki Haruo	小郡市
8		高崎 光子	Takasaki Mitsuko	小郡市
9		ナカツ ジャニス	Nakatsu Janice	三井郡
10		中村 すま代	Nakamura Sumayo	北九州市門司区
11		中村 正明	Nakamura Masaaki	北九州市門司区
12		野田 薫	Noda Kaoru	浮羽郡
13		野田 リリアン	Noda Lillian	浮羽郡
14		野田 ローラ	Noda Laura	浮羽郡
15		箱田 フミコ	Hakoda Fumiko	広島県
16		箱田 ダン	Hakoda Dan	福岡市
17		箱田 レアトリス	Hakoda Leatrice	福岡市
18		ハシサカ リード	Hashisaka Reid	アメリカ
19		濱重 きんたろう	Hamashige Kintaro	山口県
20		前田 タケヨシ	Maeda Takeyoshi	八女郡
21		前田 ヘレン	Maeda Helen	山口県
22		前田 ミツヨ	Maeda Mitsuyo	福岡県
23		村山 信也 ジェイムス	Murayama Shinya James	宗像郡
24		村山 のり子 ジェーン	Murayama Noriko Jane	八女郡
25		守田 久	Morita Hisashi	福岡県
26		守田 フジ子	Morita Fujiko	福岡県
27		八尋 勝己	Yahiro Katsumi	朝倉郡
28		八尋 ユリ子	Yahiro Yuriko	朝倉郡

〈カウアイ福岡県人会〉 参加者数 16名

NO.	役職	氏名	出身地
1	代表	クウォン クニエ H.	朝倉郡
2	副会長	オカダ グレディ	糸島郡・八女郡
3		オオシマ アキコ	京都郡
4		オカダ S. イツエ	アメリカ
5		オカダ ジョージ	糸島郡・八女郡
6		セ ト ルース	三井郡北野町
7		タナベ リリアン ヒサコ	京都郡
8		タベ ウィリアム M.	鹿児島県
9		タベ バーバラ トヨコ	鹿児島県
10		チン S. アリス	アメリカ
11		トマ ガートルード	朝倉郡
12		トマ ケビン	朝倉郡
13		ニイツマ ハナエ	朝倉郡
14		ハシサカ ノーマン	朝倉郡夜須町
15		ハシサカ メーベル	朝倉郡夜須町
16		ハラグチ ジャニス エツヨ	朝倉郡

〈コナ福岡県人会〉 参加者数 6名

NO.	役職	氏名	出身地
1	代表	新藤 美枝子	八女市
2		小柳 ノーラ	山口県・広島県
3		佐藤 きくの	久留米市
4		新藤 H. アラン	八女市
5		テルヤ カノウ アケミ	沖縄県
6		進藤 隆之	八女市

〈南加福岡県人会〉 参加者数 32名

NO.	役職	氏名	出身地
1	会長	井上 英一	八女郡上陽町
2	副会長	田島 喜八郎	八女郡黒木町
3	副会長	宮崎 正義	糸島郡二丈町
4	顧問	柳瀬 友一	朝倉郡朝倉町
5	顧問	内山 勉	浮羽郡吉井町
6	顧問	大谷 明義	嘉穂郡穂波町
7	顧問	北原 宏範	朝倉郡三輪町
8	顧問	竹内 徳康	鞍手郡小竹町
9	顧問	山本 輝志	前原市
10		井上 忍	八女郡上陽町
11		上原 正太郎	北九州市
12		内山 鏡子	浮羽郡吉井町

NO.	役職	氏名	出身地	
13		遠藤 和子	Endo Kazuko	浮羽郡
14		遠藤 晃一	Endo Koichi	浮羽郡
15		太田 久勝 ハイラム	Ohta Hisakatsu Hiram	三井郡北野町
16		川口 コニー	Kawaguchi Connie	久留米市
17		桐原 洋子	Kirihara Yoko	前原市
18		黒岩 トシ子	Kuroiwa Toshiko	三井郡
19		竹内 清子	Takeuchi Kiyoko	嘉穂郡穂波町
20		竹内 デイビット 純一	Takeuchi David Junichi	鞍手郡小竹町
21		田島 寛子	Tajima Hiroko	大牟田市
22		中原 たつ子 ヘレン	Nakahara Tatsuko Helen	嘉穂郡穂波町
23		野崎 美恵子	Nozaki Mieko	広島県
24		野田 茂人	Noda Shigeto	八女郡上陽町
25		野田 政子	Noda Masako	八女郡上陽町
26		馬場 忠雄	Baba Tadao	八女郡上陽町
27		馬場 友美	Baba Tomomi	八女郡上陽町
28		原田 美智子	Harada Michiko	大阪府
29		深町 行子	Fukamachi Yukiko	久留米市
30		宝崎 正	Hozaki Tadashi	行橋市
31		柳瀬 律子	Yanase Ritsuko	朝倉郡朝倉町
32		山本 育子	Yamamoto Ikuko	前原市

〈サンフランシスコ福岡県人会〉 参加者数 20名

NO.	役職	氏名	出身地	
1	会長	松岡 孝	Matsuoka Takashi	飯塚市
2	顧問	岩崎 幸次郎	Iwasaki Kojiro	福岡市城南区
3	副会長	川口 優	Kawaguchi Masaru	八女郡
4	副会長	佐藤 英雄	Sato Hideo	浮羽郡吉井町
5		綾部 栄治	Ayabe Eiji	浮羽郡浮羽町
6		井上 京子	Inouye Kyoko	大牟田市
7		井上 良治	Inouye Ryogi	大牟田市
8		井上 ルース	Inouye Ruth	大牟田市
9		井上 ロバート	Inouye Robert	大牟田市
10		岩崎 栄子	Iwasaki Eiko	福岡市城南区
11		大野 昭	Ohno Akira	小郡市
12		大野 友子	Ohno Tomoko	小郡市
13		川口 千代子 アイダ	Kawaguchi Chiyoko Ida	八女市
14		才藤 千津子	Saito Chizuko	福岡市
15		佐藤 加代子	Sato Kayoko	浮羽郡吉井町
16		中村 花子	Nakamura Hanako	愛知県
17		新本 康代	Niimoto Yasuyo	福岡市早良区
18		新本 善秋	Niimoto Yoshiaki	福岡市早良区

NO.	役職	氏名		出身地
19		野中京子	Nonaka Kyoko	北九州市
20		ブラウン スミ	Brown Sumi	東京都

〈シアトル福岡県人会〉 参加者数 11名

NO.	役職	氏名		出身地
1	会長	田中良実	Tanaka Yoshimi	三井郡大刀洗町
2	副会長	玉井 グレン 純 夫	Tamai Glenn Sumio	八女郡立花町
3		青木 リリアン アケミ	Aoki Lillian Akem	三井郡大刀洗町
4		浅田 佳恵子	Asada Kaeko	アメリカ
5		ガイスマン イツコ	Geissmann Itsuko	北九州市
6		田中 鶴子	Tanaka Tsuruko	三井郡大刀洗町
7		玉井 アイリーン	Tamai Eilene	八女郡立花町
8		バトラー(福島)真知子	Batchelor (Fukushima) Machiko	北九州市
9		フェツパトリック(岩本)幸子	Fitzpatrick (Iwamoto) Sachiko	アメリカ
10		ラポーゾ 廣子	Rapozo Hiroko	大阪府
11		リーブス 節子	Reaves Setsuko	アメリカ

〈湾東福岡日系人会〉 参加者数 13名

NO.	役職	氏名		出身地
1	会長	藤島 惣一	Fujishima Soichi	糸島郡
2	副会長	西 靖之	Nishi Yasuyuki	糟屋郡
3	副会長	藤井 琢磨	Fujii Takuma	嘉穂郡筑穂町
4		大岩 悦子	Oiwa Etsuko	兵庫県
5		古賀 美代子	Koga Miyoko	嘉穂郡桂川町
6		古賀 善弘	Koga Yoshihiro	朝倉郡夜須町
7		高木 輝雄	Takaki Teruo	八女郡上陽町
8		波多江 清	Hataye Kiyoshi	筑紫野市
9		波多江 百合子	Hataye Yuriko	筑紫野市
10		藤井 佐恵子	Fujii Saeko	嘉穂郡筑穂町
11		藤島 芳子	Fujishima Yoshiko	糸島郡
12		三谷 アリス	Mitani Alice	アメリカ
13		三谷 栄一	Mitani Yeichi	アメリカ

〈国内在住海外福岡県人〉 参加者数 22名

NO.	役職	氏名	出身地	
1		浅原 イベッテ 千津子	Asahara Ibette Chizuko	ブラジル
2		飯田 幸子	Iida Sachiko	メキシコ
3		猪腰 美加	Inokoshi Mika	カナダ
4		岡谷 ルシアナ 美世子	Okatani Luciana Miyoko	ブラジル
5		岡村 君江 シモニ	Okamura Kimie Simoni	ブラジル
6		尾道 匡子	Onomichi Kyoko	ブラジル
7		尾道 ビアンカ 香帆	Onomichi Kaho	ブラジル
8		梶本 薫 アンジェリカ	Kajimoto Kaoru Angelica	ブラジル
9		倉富 ウーゴ	Kuratomi Hugo	コロンビア
10		末次 クリスチーナ エライネ	Suetsugu Cristina Elaine	ブラジル
11		鈴木 章夫 セイモール	Suzuki Akio Seymor	ブラジル
12		角 健三	Sumi Kenzo	ブラジル
13		田中 幸恵 エリーザ	Tanaka Yukie Eliza	ブラジル
14		西木戸 エジソン 幸治	Nishikito Edson Koji	ブラジル
15		藤井 加奈子	Fujii Kanako	ボリヴィア
16		藤吉 美代子	Fujiyoshi Miyoko	メキシコ
17		前田 ラウラ マルティナ	Maeda Laura Martina	ペルー
18		矢野 百合江	Yano Yurie	ブラジル
19		山下 日砂斗 エルネスト	Yamashita Hisato Ernesto	ブラジル
20		山本 秀人	Yamamoto Hideto	アメリカ
21		渡部 智 マルコス	Watanabe Satoshi Marcos	ブラジル
22		渡辺 直美	Watanabe Naomi	ブラジル

実行委員会

The Executive Committee for the 4th Worldwide Fukuoka Kenjinkai Convention

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会

委員会 役職	団 体 名	役 職	氏 名
会 長	福岡県	知 事	麻 生 渡
顧 問	福岡県議会	議 長	藏 内 勇 夫
(前 顧 問)	福岡県議会	前 議 長	藤 田 茂 令)
副 会 長	福岡県観光連盟	会 長	山 下 寛 彦
(前副会長)	福岡県観光連盟	前 会 長	布 江 彌之助)
副 会 長	福岡県国際交流議員連盟	会 長	新 宮 松比古
副 会 長	ブラジル福岡県人会	会 長	矢 野 ペードロ
監 事	国際協力事業団九州国際センター (国際協力事業団九州国際センター)	所 長 前 所 長	山 口 三 郎 伊 坂 潔)
監 事	福岡県海外移住家族会	会 長	武 藤 英 治
委 員	福岡カナダ協会	会 長	鎌 田 迪 貞
委 員	福岡日米協会	会 長	重 松 五 郎
委 員	福岡ブラジル協会	会 長	林 照 雄
委 員	福岡県市長会	会 長	末 吉 興 一
委 員	福岡県町村会	会 長	山 本 文 男
委 員	赤い大地の会	会 長	原 嶋 猛 夫
委 員	(財)福岡県国際交流センター (財)福岡県国際交流センター	専 務 理 事 前専務理事	榊 原 英 夫 藤 本 英 夫)
委 員	アルゼンチン福岡県人会	前 会 長	津 留 浩
委 員	ポリヴィア福岡県人会	会 長	田 島 浩 司
委 員	ベレン福岡県人会	前 会 長	筒 井 茂 利
委 員	マナウス福岡県人会	会 長	江 藤 英 明
委 員	トマス福岡県人会	会 長	加 藤 広 行
委 員	コロンビア福岡県人会	会 長	倉 富 剛
委 員	パラグアイ福岡県人会	会 長	熊 谷 満
委 員	ペルー福岡クラブ	会 長	吉 開 ファン
委 員	レスブリッジ福岡県人会	会 長	中 村 和 郎
委 員	トロント福岡県人会	会 長	冨 永 季 徳
委 員	バンクーバー福岡県人会	会 長	清 水 恵 二
委 員	メキシコ福岡県人会	顧 問	飯 田 利 明
委 員	カウアイ福岡県人会	会 長	井 上 ノーマン
委 員	コナ福岡県人会	会 長	テグチ マサル
委 員	ハワイ福岡県人会	会 長	諫 山 皓 一
委 員	ハワイ島福岡県人会	前 会 長	箱 田 ミルトン
委 員	南加福岡県人会	顧 問	柳 瀬 友 一
委 員	サンフランシスコ福岡県人会	前 会 長	岩 崎 幸次郎
委 員	シアトル福岡県人会	副 会 長	玉 井 純 夫 グレン
委 員	湾東福岡日系人会	会 長	藤 島 惣 一

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会幹事会

幹事会	団 体 名	役 職	氏 名
幹事長	福岡県議会	議 員	今 林 久
副幹事長	福岡県生活労働部	部 長	藤 田 弘 毅
幹 事	福岡県海外移住家族会	会 長	武 藤 英 治
幹 事	(財)福岡県国際交流センター	専 務 理 事	榊 原 英 夫
幹 事	福岡県生活労働部	次 長	貞 金 聖 司

第4回海外福岡県人会世界大会実行委員会事務局

役 職	氏 名
事務総長(福岡県国際交流センター専務理事)	榊 原 英 夫
事務局長(福岡県国際交流センター事務局長)	川 上 時 春
事務局次長	吉 村 静 男
総務担当チーフ	宮 崎 勝 彦
渉外・広報担当チーフ	藤 野 久 長
行事担当チーフ	宇 都 宮 剛
事務局職員	古 賀 浩 子
事務局職員	江 上 華

後援

Sponsors

外務省、(財)海外日系人協会、国際協力事業団、国際交流基金、(社)日本海外協会、アルゼンチン共和国大使館、ボリビア共和国大使館、ブラジル連邦共和国大使館、パラグアイ共和国大使館、ペルー共和国大使館、在福岡アメリカ合衆国領事館、在福岡カナダ領事館、在福岡コロンビア共和国名誉領事館、在福岡メキシコ合衆国名誉領事館、福岡県教育委員会、福岡県市議会議長会、福岡県町村議会議長会、(財)福岡県農業拓殖基金協会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、日本経済新聞社、西日本新聞社、NHK福岡放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、TVQ九州放送

協賛

Supporters

九州電力(株)、西日本鉄道(株)、(株)福岡銀行、日本航空(株)福岡支店、(株)西日本銀行、西部瓦斯(株)、(株)福岡シティ銀行、九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、(株)コングレ、サンフランシスコ福岡県人会、(財)福岡県農業拓殖基金協会、福岡地所(株)、(株)富士ピーエス、ブラジル福岡県人会、湾東福岡日系人会、ボリビア福岡県人会、(株)エヌ・ティ・ティドコモ九州、NTT西日本(株)福岡支店、県庁総合売店協力会〔大久保書店、久留米月星商事(株)、呉服・紳士服のそがや、紳士服の立花屋、(株)体育堂、玉屋リネンサービス(株)、(株)鳥越時計店、(株)ドイ、文具の田中、(株)薬局白十字〕、在福岡コロンビア共和国名誉領事館、在福岡メキシコ合衆国名誉領事館、(株)ジェーシービー、(株)セントラルユニ、(株)トーホー、西鉄旅行(株)、(株)松本組、リックス(株)、(株)新出光、(株)福岡中央銀行、コイザス・ド・ブラジル文化協会、(株)筑邦銀行、福岡鶴城ライオンズクラブ、福岡県信用保証協会、全国共済農業協同組合連合会福岡県本部、全国農業協同組合連合会福岡県本部、福岡県信用農業協同組合連合会、福岡県農業共同組合福岡中央会、(株)ゼンリン、(株)ピエトロ、岩崎建設(株)、(有)エム・エイ・シー、北九州日米協会、(株)九州ナガラ、国際協力事業団九州国際センター、(株)サニックス、(株)タカクラホテル福岡、第一交通産業(株)、(株)芳賀、(株)福岡銀行県庁内支店、福岡玄海ライオンズクラブ、(社)福岡県高齢者能力活用センター、福岡県町村会、福岡ブラジルクラブ、(株)三森屋、(株)ミヤコ、コカ・コーラウエストジャパン(株)

このほか、福岡県議会議員、福岡県海外移住家族会会員、福岡県職員やOB、市町村職員の方々をはじめ多くの県民の皆様からご協力をいただきました。

『海外移住における福岡県人の軌跡』写真展 パネル集

Panels in Photo Exhibition

海外移住について

1 我が国の海外移住

(1) 海外移住の始まり

1868年(明治元)のハワイ移住により始まり、133年を経過
カナダ(1877年)、メキシコ(1897年)、ペルー(1899年)、
ボリビア(1899年=本格的移住は戦後)、ブラジル(1908年)、
アルゼンチン(1913年)、コロンビア(1929年)、パラグアイ(1936年)

(2) 海外移住者総数(1世の数)

約104万人

戦前 主として北米、南米に約78万人が移住、明治後期から大正にかけてア
メリカ、カナダへの渡航が制限され、南米への移住が本格化
出稼ぎ的な傾向が顕著

戦後 昭和27年のアマゾン移住をもって再開、南米移住が主流、昭和30年代
前半が最盛期、昭和40年代以降減少、戦後約26万人が移住

(3) 海外日系人数(1世、2世、3世、4世等国籍、混血を問わない)

250万人(推定)

ブラジル130万人、アメリカ100万人(うちハワイ24万人)
ペルー8万人、カナダ5.5万人、アルゼンチン3.2万人、メキシコ1.2万人、
パラグアイ7.7千人、ボリビア6.7千人チリ1.6千人、コロンビア1.2千人

2 福岡県の海外移住

(1) 海外移住の始まり

1885年(明治18)のハワイ移住により始まり、116年を経過
アメリカ本土(1887年)、ペルー(1903年)、メキシコ(1906年)、
ブラジル(1910年)、コロンビア(1929年)、
ボリビア(1955年、サンファン移住地入植)、パラグアイ(1956年)

(2) 海外移住者総数

・戦前・戦後計 55,776人(全国第4位)

※都道府県ごとの数には、自由移民が含まれていない。

戦前(明治32年から昭和16年)
51,240人(全国比7.8%)

戦後(昭和27年度から平成5年度)
4,536人(全国比6.2%)

第1位	広島	98,975人
第2位	沖縄	79,454人
第3位	熊本	72,699人
第4位	福岡	55,776人
第5位	山口	47,430人

海外福岡県人会 9カ国21県人会

名 称		名 称		
	アルゼンチン福岡県人会		パラグアイ福岡県人会	
	ボリヴィア福岡県人会		ペルー福岡クラブ	
ブ ラ ジ ル	ベレン福岡県人会	ア メ リ カ	ハワイ福岡県人会	
	ブラジル福岡県人会		ハワイ島福岡県人会	
	マナウス福岡県人会		カウアイ福岡県人会	
	トメアス福岡県人会		コナ福岡県人会	
カ ナ ダ	レスブリッジ福岡県人会		南加福岡県人会	
	トロント福岡県人会		サンフランシスコ福岡県人会	
	バンクーバー福岡県人会		シアトル福岡県人会	
	コロンビア福岡県人会			湾東福岡県人会
	メキシコ福岡県人会			

海外福岡県人会世界大会

(開催に至るまでの経緯)

平成2年(1990年)各海外福岡県人会を「とびうめ国体」に招待。このとき海外県人会役員の会合が行われ、県人会の同士の交流を図ろうとの提案がなされた。

1 第1回世界大会

- (1) 場所：米国ロサンゼルス市
- (1) 期日：平成4年(1992年)
9月9日～12日
- (2) 主催：南加福岡県人会



2 第2回世界大会

- (1) 場所：ブラジル連邦共和国サンパウロ市
- (2) 期日：平成7年(1995年)
9月8日～11日
- (3) 主催：ブラジル福岡県人会



3 第3回世界大会

- (1) 場所：アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市
- (2) 期日：平成10年(1998年)
9月9日～11日
- (3) 主催：ハワイ福岡県人会



アルゼンチン共和国 (アルゼンチン福岡県人会)

首都 ブエノス・アイレス
 面積 278.2万 km² (日本の約7.3倍)
 人口 3,613万人(1998年世銀)
 言語 スペイン語
 宗教 カトリック教
 通貨 ペソ
 国民総生産 (GNP) 2,779億米ドル(1999年、世銀)
 1人あたりの GNP 7,600米ドル(1999年、世銀)

福岡県人会

県人会名	アルゼンチン福岡県人会
所在地	ブエノスアイレス
設立年月日	1965年5月
世帯数	120

2001年6月現在



1953年5月 出発前の国会議事堂での写真



1964年8月24日 福岡県田川郡出身、田中六助代議士歓迎会 (すみれ食堂に於いて)

1965年5月12日 在アルゼンチン福岡県人会創立発会28名出席
 藤嶋多一福岡県知事を囲んで (日本人会会室に於いて)

アルゼンチン共和国（アルゼンチン福岡県人会）



1969年4月13日 ビクニック（ブルサコ共和国に於いて）



毎年1月第3土曜日は新年会



1977年 田中六助代議士夫妻アルゼンチン来訪



1977年 亀井知事アルゼンチン来訪



1995年 9月13日 アルゼンチン福岡県人会創立30周年祝賀会



1998年6月21日 高上自衛隊がアルゼンチンを訪問
福岡県出身者同志が同じテーブルで敬談

ボリヴィア共和国 (ボリヴィア福岡県人会)



首都 ラパス (法律上の首都はスクレ)
 面積 109万8,581km² (日本の約3倍)
 人口 705万人(1998年)
 言語 スペイン語 (他にケチュア語、アイマラ語)
 宗教 カトリック教
 通貨 ボリヴィアノ
 国内総生産 (GDP) 6,791百万米ドル(1998年、中額)
 1人あたりの国民総生産 (GNP) 880米ドル(1998年、中額)

2000年9月現在



福岡県人会

県人会名	ボリヴィア福岡県人会
所在地	サン・ファン日本人移住地
設立年月日	1973年9月
世帯数	37

ボリヴィア共和国サン・ファン日本人移住地



開拓の旅一歩、測量始めの共同作業に出発
(1955.8)



開拓を待つ原始林



開拓された原始林 大自然の中では人影も小さい (中央右側)

1960年代



農耕路に立つ開拓者



貧窮ながらも農楽らしさが



農先で脱穀作業に忙しい農家



校庭のそばは原始林

青年たちの協力でできた試験農家の
天日乾燥場はテニスコートに早変わり

ボリヴィア共和国 (ボリヴィア福岡県人会)



居住地の入口「ゼロ・ゼロ」

4キロメートルの農地



14キロ・ヤバカ二層工業用貯蔵庫の建設



入植40年(1995年)
経過時点での農情状況
(多角経営)



サン・ファン移住地入植記念式典(1985年、1995年)

移住40周年記念式典(1995年)
表彰される移住者代表者



1983年に作られた最初の30周年式典



入植40年(1995年)経過時点での
移住地の公共施設の一部

サン・ファン学園(1995年)



入植開始の農産物(移住の大物)「イ学館
120年



ボリヴィア共和国 (ボリヴィア福岡県人会)



30年 移住

30年と移住の歴史

思い出かきたてた児童画

高米ボリビア・サンファン移住地
黒木町などから 慶祝訪問団

カメランツチ

ボリビア共和国の首都ラパスから、高米ボリビア・サンファン移住地へ、黒木町などから慶祝訪問団が訪れた。訪問団は、高米ボリビア・サンファン移住地の児童と交流し、思い出をかきたてた児童画を制作した。児童画には、移住地の風景や、訪問団との交流の様子が描かれている。また、訪問団は、高米ボリビア・サンファン移住地の歴史や文化についても学び、交流を深めた。

肉親と対面へ

黒木町から訪問団 式典や記念行事

ボリビア共和国の首都ラパスから、高米ボリビア・サンファン移住地へ、黒木町などから慶祝訪問団が訪れた。訪問団は、高米ボリビア・サンファン移住地の歴史や文化についても学び、交流を深めた。

移住30年

ボリビア

筑後版

7月に入植30周年記念式典

ボリビア・サンファンの移住者たち

働き者揃いの県人 30年、血みどろの開拓史

ボリビア共和国の首都ラパスから、高米ボリビア・サンファン移住地へ、黒木町などから慶祝訪問団が訪れた。訪問団は、高米ボリビア・サンファン移住地の歴史や文化についても学び、交流を深めた。

● material ●

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）

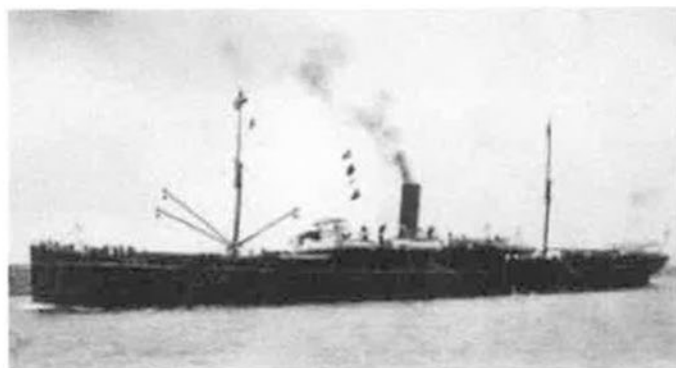


首都 ブラジリア
 面積 851.2万km² (日本の22.5倍)
 人口 1億5,700万人(1996年地球統計年報)
 言語 ポルトガル語
 宗教 カトリック教(約90%)
 通貨 レアル
 国内総生産(GDP) 5,958億米ドル(2000年、旧中銀)
 1人あたりのGDP 3,587米ドル(2000年、旧中銀)



2001年5月現在

福岡県人会	ブラジル	ペレン	トメアス	マノウス
県人会名	ブラジル	ペレン	トメアス	マノウス
所在地	ブラジル	ペレン	トメアス	マノウス
設立年月日	1930年5月	1969年1月	1975年11月	1959年10月
世帯数	1,000	40	10	18



福岡県人を初めてブラジルに運んだ「龍丸」

ブラジル県人会の歴史

- 1910年(明治43) 第2回移民船「龍丸」により最初の福岡県人(21家族79人)がブラジルに渡る
- 1926年(昭和元) この時期から昭和9年までブラジル移住がピークとなる
- 1930年(昭和5) 「福岡県海外協会ブラジル支部」が発足
- 1952年(昭和27) 協会整理、県人会活動の再開
- 1964年(昭和39) 「在伯福岡県人会」に設立
- 1967年(昭和42) 県費留学制度が始まる。今日まで160人が県内に留学
- 1971年(昭和46) 福岡県人会を再編
- 1973年(昭和48) 高齢者長期帰国制度が始まる(平成10年度まで)
- 1979年(昭和54) 第1回農業実習生一行ブラジル到着
- 1985年(昭和60) 福岡県人ブラジル移住75周年、県人会創立55周年
- 1988年(昭和63) 日本人移住30周年
ブラジル派遣農業実習生事業10周年
- 1990年(平成2) 福岡県人ブラジル移住90周年、県人会創立60周年
- 1994年(平成6) ブラジル福岡県人会に改称
- 1995年(平成7) 第2回海外福岡県人会世界大会サンパウロ市で開催
- 1996年(平成8) ボリビア福岡県人と交流
- 1998年(平成10) 日本人移住90周年
ブラジル派遣農業実習生事業20周年
- 2000年(平成12) 福岡県人ブラジル移住90周年、県人会70周年
第1回ブラジル福岡県人会帰国実習生OBセミナー

ブラジル福岡県人会歴代会長



(歴代会長)

material

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル、サンパウロ州
自分達の土地を自力で開墾する日本移民の1920年代（大正後期）
頃（移民初期の時代）



ブラジル、サンパウロ州（1930年代頃 昭和初期）
莫りやすい畑にさせるため、移民はしばしば畑に火をつけていた



ブラジル、サンパウロ（1930年代 昭和初期）の日本移民の生活の一部を伝える貴重な1枚
遠い町から調達して来た1ヶ月分の食料等を持って車路に寄り着く父親

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル、パラナ州（1930年）
崩壊後建てられた移民の小屋 数々の倒れた木々が小屋を囲む



ブラジル、パラナ州（1930年代頃）
荒れ地を直す移民 手作業にて行う跡と付けは大層な労力を要し、
水をよけながらの仕事は辛いものだった



ブラジル、パラナ州（1930年代頃）
跡された畑に種を播く移民
雨りに見受けられるのは種々な木の苗っこ

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



真っ赤な実を实らせたコーヒーの木 家族の汗水流して働いた結晶



働えられて4年ほど経ったコーヒー園 コーヒーの木の間には水や豆
コーヒーで充分な収入が得られない時には、これらの収穫で一家の家計を切り盛りした



ブラジル、パラナ州（1930年代頃 昭和初期）
収穫されたコーヒー豆を振るいかけする農夫 かなり力の要る作業だった

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル、サンパウロ州（1930年代頃 昭和初期）
子供達はよく大人達の手伝いをさせられ、農作業も勿論だが、
何よりも年少の弟や、姉達の面倒を見るのが主な役目だった



畑で働く親に弁当を持って行く移民の子供達
長い道のりを、傘をくくりながら毎日かよった
娘いながらにしての苦労が伺われる



ブラジル、サンパウロ州（1936年 昭和11年）
ベラ・クルス市日本人小学校の賞状な贈物の前に並ぶ子供達
大人も多額見受けられる

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル、サンパウロ州（1940年代頃）
当時のサンパウロ州ではよく見かけられていた緑畑一面。緑の芽は140センチまで
大きくなることもあった。まるで緑とは思えない、花畑のような美しい風景



農作業の合間の福岡県人（1937年 昭和12年）



ブラジル、サンパウロ州（1940年代頃）
袖もに袖った収穫の日。見事に成ったコーヒー豆を手作業にて振り入れる

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル、サンパウロ州（1950年代頃）
当時の日本人にとっては珍しく且つ貴重だったバナナやパイナップルなどの南国フルーツ
子供達はこれらの木が生い茂る周辺で遊びながら、ブラジルでの幼少時代を過ごした



ブラジル、サンパウロ州（1950年代頃）
熟の収穫時の模様 まるで花畑の中にいるようで、
心の癒し一役



広い畑にコーヒー豆を敷き詰め、乾燥させる作業 仕事に精を出す移民ののどかな風景

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



作良軍・古賀政男氏を囲んで（1951年8月同郷会の集い）
古賀政男氏は1972年にもブラジルを訪問



福岡県知事・土屋春彦ブラジル訪問（1956年10月サンパウロ市）
右より宮藤賢孝、内山会長、土屋知事、原田副会長



福岡第一高校ブラジル訪問 上野会長邸にて懇談会（1965年5月）

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



日本人ブラジル移住80周年（1989年）



日本移住80年祝式典に出展した員田八二通知事は州政庁を長敬訪問した



員田風知事一行の歓迎会が盛大に催された

第2回海外福岡県人会世界大会（1995年 平成7年9月 於サンパウロ市）
8カ国9県人会、会員800人以上が参加



ブラジル、サンパウロ市 平成7年9月2日に開催された第2回海外福岡県人会国際交流大会の参加者選 前列中央（グレーのスーツ、眼鏡姿）は権英進知事副生道氏



ブラジル福岡県人会の代表見習者グループ



サンパウロでの国際交流大会閉幕後に飾かれたサンバの風景は大評判だった

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



福岡県人移住90周年、県人会創立70周年記念（2000年9月）



福岡県人ブラジル移住90周年とブラジル福岡県人会70周年記念を祝する
福岡県副知事、県人会副議長その他大勢の訪問団



記念式典での福翁舞発表



式典のハイライト瞬間の一枚 参加しているのはブラジル福岡県人会会長
ペドロ・ヤノ氏、中村龍氏、アントニオ・ウエノ氏、それに福岡県議会議員
の方々



カンピーナス市における第3回知事杯争奪ゲートボール大会

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ポリヴィア県人会との交流



ブラジル福岡県人会館の前に集まったブラジル・ポリヴィア両国の通人会メンバー達



数年前より交流の場を設け、親善を深め合うブラジル・ポリヴィア両国の福岡通人会メンバー達

福岡県人が経営する工場



行徳セラミック工場
1964年サンパウロ州スズノ市に設立 床や壁のタイルを製作



セラミック工場内の様子
40分かけて1200℃の釜でタイルを焼く 燃料は天然ガス

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジル福岡県人会 県費留学生OBセミナー ブラジル県人会から、昭和42年度から平成13年度まで160人が福岡に留学
県費留学生のネットワークを築くため2000年から年に一度セミナーを開催

第1回開催（2000年11月26日 於サンパウロ）



第1回ブラジル福岡県人会県費留学生OBセミナー
参加の留学生達



第1回ブラジル福岡県人会県費留学生OBセミナーの全参加者
（2000年11月26日開催）



セミナーにて講演を行うスオオ・サトウ氏
（サンパウロ州立総合大学教授）



福岡県での研究テーマをセミナーにて説明する。
2001年度県費留学生M.S. エライネ・スエング

第2回開催（2001年7月7～8日 於サンパウロ）



第2回セミナー出席者一同



セミナー開会式、矢野会長挨拶
21世紀にむかいリーダー育成の必要性を挙げる



セミナー開会式、ブラジル元選出議員上野アントニオ氏の挨拶



セミナーで講演を行うブラジル銀行副支店長和矢氏
演題は「法律、出稼労働者及び日本・ブラジル文化交流の重要性」

福岡県ブラジル派遣農業実習生のあゆみ



実習記念に入口に植えた二本のヒバが、今は15メートルに成長、19年ぶりに感涙深く眺める2回生（昭和54年度）井上裕生君と久賀英典君。右端は農場主の宮澤勝英さん【サンパウロ州アチバイアにて】



交換ゲームも終わって、お互い健闘を讃えて出し入れを交わす4回生（昭和56年度）【サンパウロ州カンピーナスにて】



艶香の花アンセリウムの平入れを賞う9回生（昭和61年度）田中眞洋君（左）と七瀬晴雄君（右）、中央は農場主の高沢正徳さん【サンパウロ州レストロにて】



炎天下汗だくでマラクジャの収穫に励む8回生（昭和60年度）高橋博義君（中央）と田中勉君（右端）【サンパウロ州アルバレス マッサード、平田農場にて】



持ちこんだ、これがブラジル風焼肉料理のシュラスコ。大喜びで順番を待つ23回生実習生たち【サンパウロ州ジュンジャイ 日野孝徳さん宅にて】

福岡県ブラジル派遣農業実習生のあゆみ



ブラジルの茶どころレジストロで、機械を引いての茶採みの10回生
田中善崇（中央）と岡田隆次君（右端）
【サンパウロ州レジストロ 霧ヶ江茶園で】



子午の予防注射は初めて 13回生全員で押さえつけ
こわごわやっと終了
【サンパウロ州ブレジデンテヴェンセスラウ 吉原牧場で】



乗馬にも慣れ、炎天下汗だくで午を這う18回生中村浩昭君（左端）
中央は農場主吉原政善さん
【サンパウロ州ブレジデンテヴェンセスラウ 吉原牧場で】



たわむに買ったイタリアブドウ園で16回生佐藤進治君（左端）
農場主古賀満さん（右端）、徳永昌治君（右から二人目）中央は
古賀和幸さん
【サンパウロ州ソカバ 古賀農場で】



30歳を越す暮さも笑顔で吹き飛ばしジャガイモの収穫に励む
19回生明永和太郎君（中央）と田中信孝君（左端）
【サンパウロ州サンミゲル・アルカンジョ 倉庫場で】

福岡県ブラジル派遣農業実習生のあゆみ



収穫期に入った浮気畑で22年生（平成11年度）田野和磨（左）と
織田利明君（右）中央は農場主の向嶋さん
【サンパウロ州ピラルドスールにて】



近年栽培を可能にしたご自慢のブロッコリー畑で左から
吉代子夫人、第23回実習生の入江豊城君と浦部篤君
後ろは農場主の岡谷忠さん
【サンパウロ州カピレウーバにて】



「食べなさあーい！！」が家友夫妻の口ぐせ 今夜も
夫人の手料理で、左から22年生（平成11年度）の
山下良博君、家友之君、家友夫妻
【サンパウロ州サンミゲールアルカンジョにて】



実習地アテバイアはサッカーの本場 作業後サッカーの練習が楽しみ
陽気な20年生（平成9年度）たち
【サンパウロ州アテバイアにて】



“サポテン三 日野農舎”（中央）から習った寄せ植えに勤む
4年生（昭和55年度）藤井幹次君（左）と中島秀雄君（右）
【サンパウロ州ジュンジアイ、日野サポテン園にて】



サポテンの寄せ植えの歴史を習う22年生（平成12年度）左から
日野健さん、花田真幸君、田中猛雲、大津康晴君、日野孝彦さん
【サンパウロ州ジュンジアイ、日野サポテン園にて】

* 永年にわたり、ご協力頂いている日野サポテン園

福岡県ブラジル派遣農業実習生のあゆみ



ブラジル派遣農業実習10周年記念で福岡市のど真ん中天神で盛大にオープンした青空市 (1988年10月)



赤い大地の会20周年祝賀の幕開けは盛勢よく丰收の旗狩りで (左から中村勲農人会顧問、林知雄秋田知事、藤田利雄会長、青賀正浩衆議院議員、内務邦雄農政部長、大石正記議院議員) (1993年9月8日)



ブラジル派遣農業実習20周年赤い大地の会祝賀と謝恩の夕べでお祝いの太鼓を打ち鳴らす13回生中村久道 (1993年9月8日)



ブラジル福岡農人会女野会長、菅原会長をお迎えしてお祝いと感謝の夕べの幕上、移住90周年記念Tシャツを菅原会長から農村赤い大地の会長へ (2000年5月27日 福岡国際ホールで)

ブラジル連邦共和国（ブラジル福岡県人会）



ブラジルで川筋男のト根性



日本料理店主で大成功ノ
ツルハシ捨て30年

この記事はベレン福岡県人会

音登つらば



移住者たちの汗を学ぶ

「入植の歴史」教材に
第1回 移住者たちの汗を学ぶ



入植の苦闘肌で実感

ブラジル系道の福岡県実習生

ブラジル系道の福岡県実習生



ブラジル連邦共和国（マナウス福岡県人会）



首都 ブラジリア
 面積 851.2万 km²（日本の22.5倍）
 人口 1億5700万人（1996年国勢統計）
 言語 ポルトガル語（公用語）
 宗教 カトリック教徒約90%
 通貨 レアル（R\$）
 国内総生産（GDP） 5,958億米ドル（2000年、伯中銀）
 1人あたりのGDP 3,587米ドル（2000年、伯中銀）

2001年6月現在

福岡県人会				
県人会名	ブラジル	ペレン	トメアス	マナウス
所在地	マナウス州マナウス	ペレン州マナウス	トメアス州マナウス	マナウス州マナウス
設立年月日	1930年6月	1969年1月	1975年11月	1959年10月
世帯数	1,000	40	10	18



福岡県から移住した家（1959年）
中央は初代県人会長の江藤氏



畑を作るのにじゃまな大木を切っているところ（1959年）



畑を作っているところ（1959年）



大綱で苗を作る床を作っているところ
橋（ザウバ）が来て、苗をびってしまったため、
地面から高いところに苗床を作っている（1959年）

ブラジル連邦共和国（マナウス福岡県人会）



現地の方といっしょ（1960年）



近くに水がないため、毎日川へ水くみに（1959年）



蛇の捕獲（1968年7月）



専住してから初めての雑刈り（1959年）

ブラジル連邦共和国（トメアス福岡県人会）



首都 ブラジリア
 面積 851.2万km² (日本の22.5倍)
 人口 1億5700万人(1996年地理統計院)
 言語 ポルトガル語(公用語)
 宗教 カトリック教徒約90%
 通貨 レアル
 国内総生産(GDP) 5,958億米ドル(2000年、推中銀)
 1人あたりのGDP 3,597米ドル(2000年、推中銀)

2001年6月現在

福岡県人会	ブラジル	ペレン	トメアス	マナウス
県人会名	ブラジル	ペレン	トメアス	マナウス
所在地	〒700-2001 岡山県岡山市東区	〒718-8510 岡山県津山市	〒738-8722 岡山県高梁市	〒739-2222 岡山県高梁市
設立年月日	1930年6月	1969年1月	1975年11月	1959年10月
世帯数	1,000	40	10	18



第1回入植者の写真(1929年)



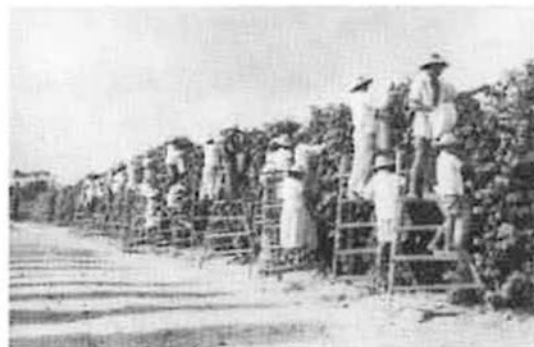
西米尾産林株式会社による山焼き(1930年代)



初期移民の開拓小屋(1930年代)



米の脱粒



黄金時代のビメンタ(綿)業 当時は黒ダイヤと呼ばれた(1950~1960年代)

ブラジル連邦共和国（トメアス福岡県人会）



地区対抗野球大会（1960年代）



第二植民地の入り口で



クシュー橋架設工事（1963年 昭和38年）



ペレンまで道路開通（1973年 昭和48年）



入植50周年記念餅（1979年 昭和54年）



トメアス農協のジュース工場



駅前高の中心地、十字路地区



トメアスの歴史の立役者ビメンタ 今も根強く盛増されている

カナダ (トロント福岡県人会)



首都 オタワ
 面積 997.1万6100km² (日本の27倍強)
 人口 3,075万人(2000年国勢調査)
 言語 英語、フランス語
 宗教 ローマカトリック(約50%)
 通貨 カナダ・ドル
 国内総生産(GDP) 10,388億カナダ・ドル(名目、1999年)
 1人あたりのGDP 31,125カナダ・ドル(名目、1999年)

2001年7月現在

福岡県人会

県人会名	バンクーバー	トロント	レスブリッジ
設立年月	1981年2月	1981年2月	1981年10月
世帯数	40	118	35



1920年 カンバーランド農場の契約移民



最も厳しいロッキー山脈を越えて東へ移る多くの難民たち



平野の農作業

同一の28フィート(8.4m)×14フィート(4.2m)の
ぼったて小屋に2家族(10人)以上キャンプに拘束された

バンクーバー東部の日本国学校(1935年)

カナダ（トロント福岡県人会）



毎年4月に行われる懇話会



毎年8月に行われるピクニック



県人会20周年記念パーティー（2000年4月）

コロンビア共和国 (コロンビア福岡県人会)

首都 サンタフェアボゴタ(通称ボゴタ)
 面積 113.9万km²(日本の3倍強)
 人口 4,080万人(1998年国連)
 言語 スペイン語
 宗教 カトリック教
 通貨 ペソ
 国内総生産(GDP) 847.42億米ドル(1999年統計)
 1人あたりの国民総生産(GNP) 2,250米ドル(1999年世銀)

福岡県人会

県人会名	コロンビア福岡県人会
所在地	カリア市
設立年月	1978年11月
世帯数	55

2001年7月現在



1932年(昭和7年)頃伐採奨励風景の一コマ



1934年(昭和9年)畑の中での運動会 観客は誰もいない



中央アンデスを宵にコリント移住地にてブリコを使っての豆収穫 現輸入も上平に使えるようになった



1937年(昭和12年)頃又長節に乗った日系社会のトラクター 舟池を巻く



1941年(昭和16年)頃入植当時よくできた豆畑 一家揃って雑草作業

コロンビア共和国（コロンビア福岡県人会）



1937年（昭和12年）ご勝入道による玉入れ競争



1937年（昭和12年）頃 移住地での祭典大会 まわしの代わりに船票に
乗り籠を使用



1938年（昭和13年）福岡県出身の興拓魂が伝わる勇ましい運動会



1940年（昭和15年）小学校進足でのコマ



1989年（平成元年）移住60周年祭



1998年（平成10年）8月16日 福岡県人会創立20周年記念

メキシコ合衆国 (メキシコ福岡県人会)



首都 メキシコ・シティ
 面積 197万km² (日本の5倍強)
 人口 9,736万人(2000年国勢調査中間集計)
 言語 スペイン語
 宗教 カトリック教(約90%)
 通貨 ペソ
 国内総生産(GDP) 5,745億米ドル(2000年、基中値)
 1人あたりのGDP 5,814米ドル(2000年、基中値)

2001年6月現在



福岡県人会

県人会名	メキシコ福岡県人会
所在地	メキシコシティ
設立年月日	1952年6月
世帯数	90



新年会 中央学園にて(1953年)



新年会 中央学園にて(1954年)



県人会の役員たち(1957年)



福岡県人会のご婦人方(1959年)



福岡県人会のご婦人方(1962年)



福岡県人会の会合(1967年)



グアダルーペ湖までの温泉



1980年 新年会



1981年 新年宴会男性組「どじょうすくい」



1987年 役員さんの大合唱

メキシコ合衆国（メキシコ福岡県人会）



1990年 とびうめ国体体育節



1991年 創立40周年記念式典



1994年1月 「探偵節」



1991年日産会館の園にて秋祭り お寿司の出店



1998年 邦人会春の野遊会 納涼、テコス



2001年1月 創立50周年



メキシコ福岡県人会創立50周年記念（2001年）

パラグアイ共和国 (パラグアイ福岡県人会)

首都 アスンシオン
 面積 40.7万km² (日本とほぼ同じ)
 人口 663.4万人(1999年統計値)
 言語 スペイン語、グアラニー語
 宗教 主にカトリック
 通貨 グアラニー
 国内総生産(GDP) 75.01億米ドル(2000年、中銀)
 1人あたりのGDP 1,506米ドル(2000年、中銀)

福岡県人会

県人会名	パラグアイ福岡県人会
所在地	エンカルナシオン
設立年月	1958年9月
世帯数	40



2001年5月撮影



密林の開拓



入植当初の仮小屋 周囲はまだ密林



原産地から材木を運搬する牛車



1965年頃 初期の農業集落



開拓2年目の大豊畑と原生林

パラグアイ共和国 (パラグアイ福岡県人会)



空から撮影したファーム中心部の風景
なだらかに広がる大地が雄大



現在の農協本部。粟蔵サイロ(中央) 種子用サイロ(右)が置かれている
高層田の雄姿が伺われる



大型機械化時代の到来 小麦の収穫は一気にスピードアップされた(1985年)



入植25周年祭の仮輪行列(清島太郎) 全員参加の盛大な盛り



福岡県人パラグアイ移住30周年記念会(1985年11月2日)



福岡県人移住45周年 県人会創立40周年記念式典(2000年9月6日)

ペルー共和国 (ペルー福岡クラブ)

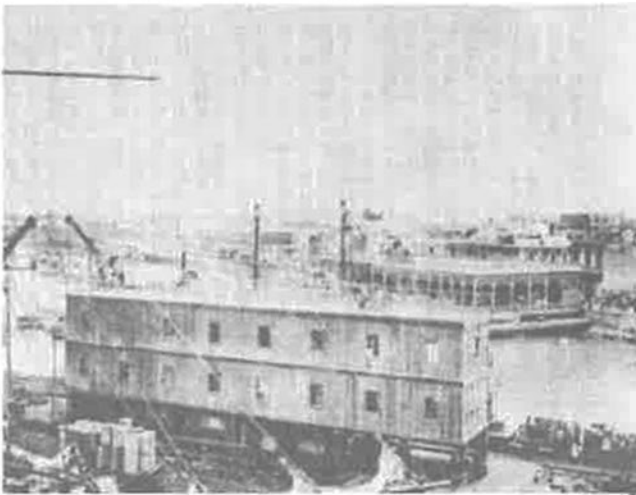
首都 リマ
 面積 128万3,215km² (日本の約3.8倍)
 人口 2,566万2,000人(2000年ペルー国立統計院)
 言語 スペイン語 (他にケチュア語、アイマラ語)
 宗教 カトリック教 89%
 通貨 ニエボ・ソル
 国民総生産 (GNP) 60,491百万米ドル(1999年世銀)
 1人あたりの GNP 2,440米ドル(1999年世銀)



2001年3月現在

福岡県人会

県人会名	ペルー福岡クラブ
所在地	リマ市
設立年月	1959年3月
世帯数	200



カヤオ港



砂泥が備いたカニエテ製煉工場



サンニコラス新地

● material ●

アメリカ合衆国（ハワイ福岡県人会）

首都 ワシントンD.C.
 面積 962.8万km²（日本の25.5倍）
 人口 2億8,142万人（2000年50州）
 言語 主として英語
 宗教 主としてキリスト教
 通貨 米ドル
 国内総生産（GDP） 99,631億米ドル（名目、2000年）
 1人あたりのGDP 34,063米ドル（名目、1999年）

2001年7月現在

福岡県人会

県人会名	ハワイ	コナ	カウラ	カウラ	カウラ	カウラ	カウラ	カウラ	カウラ
設立年	1937年	1969年	1966年	1986年	1988年	1950年	1907年	1907年	1907年
定款数	260	107	116	107	615	106	20	150	150



官約移民時代サトウキビ畑の雑草とりをする女性労働者
 (1890年頃)



切ったサトウキビを薪に束ねこむ（1896年オアフ）



1900年1月 日本移民協会（移民会社協賛会取組）との契約書
 片割15ドル（約30円）当時日本の小学校の教員の初任給10～13円

アメリカ合衆国（ハワイ福岡県人会）



1936年福岡総領事館歓迎記念式典



1960年「海乃家」にて



1970年 ピクニック（アラモアナビーチパーク）



1970年ピクニックの備品（お茶、キャベツ、電氣釜…）

アメリカ合衆国（南加福岡県人会）



首都 ワシントンD.C.
 面積 962.8万km² (日本の25.5倍)
 人口 2億8,142万人(2000年50歳)
 言語 主として英語
 宗教 主としてキリスト教
 通貨 ドル
 国内総生産(GDP) 99,631億米ドル(名目、2000年)
 1人あたりのGDP 34,002米ドル(名目、1999年)

2001年7月現在



福岡県人会	ハワイ	コナ	ハワイ	ハワイ	南米	ハワイ	ハワイ	ハワイ
設立年	1957年	1963年	1966年	1986年	1988年	1990年	1997年	1997年
世帯数	260	107	116	107	615	106	30	150



1958年頃の南加福岡県人会



ピクニック



1998年 ピクニック 竹内会長から賞品を渡される



1995年 海外福岡県人会国際交流 ブラジルにて



皆さんがんばって!



福岡県人会敬老会



一日中楽しいピクニック

アメリカ合衆国（南加福岡県人会）



1997年8月 やぶさめ



1998年9月6日 南加福岡県人会創立90周年記念式典



1998年9月 ホノルルにて第3回世界福岡県人会大会



1999年1月31日 県留學生OGたち（新年総会にて）



敬老ホームを見舞う婦人会の方々

アメリカ合衆国（南加福岡県人会）



1999年11月「青年のつばさ」の啓蒙と



南加福岡県人会

1999年 新春

アメリカ合衆国（サンフランシスコ福岡県人会）



首都 ワシントンD.C.
 面積 962.8万km² (日本の25.5倍)
 人口 2億8,142万人(2000年5月)
 言語 主として英語
 宗教 主としてキリスト教
 通貨 米ドル
 国内総生産(GDP) 99,631億米ドル(名目、2000年)
 1人あたりのGDP 34,063米ドル(名目、1999年)

2001年7月現在



福岡県人会

県人会名	ハワイ	コナ	ハワイ島	マウナ	高知	サンフランシスコ	東京	大阪
設立年	1957年	1969年	1966年	1966年	1908年	1910年	1907年	1907年
世帯数	260	107	116	107	515	108	30	150



1913年 コミュニティピクニック



1918年 県人会ピクニック



1923年 ハワイ日本人会幹事員及び部長



昭和初期の導入会ピクニック



昭和初期の県人会ピクニック

アメリカ合衆国（サンフランシスコ福岡県人会）



1928年3月 観射会



1928年4月 大運動会



1931年 福岡県海外協会主事藤原茂氏歓迎記念



サンフランシスコ福岡県人会社代会長 堀 旺次郎（右側）
南加州同郷人会初代会長 堀 愛次郎（左側）
（1910年撮影）

アメリカ合衆国（サンフランシスコ福岡県人会）



サンフランシスコ福岡県人会創立記念会（1963年1月）



1968年秋 サンフランシスコ福岡県人会及び観光帰国日本人の
会同日本訪問



1978年4月 恒例のサンフランシスコ日本町が主催する
板原に日本から参加された岡多どんたく隊の総務
全員で100名程参加されました



サンフランシスコ福岡県人会会合（2000年1月）



2000年9月24日 サンフランシスコ福岡県人会創立50周年記念祝賀会

アメリカ合衆国（シアトル福岡県人会）



首都 ワシントンD.C.
 面積 962.8万km² (日本の25.5倍)
 人口 2億8,142万人(2000年50州)
 言語 主として英語
 宗教 主としてキリスト教
 通貨 米ドル
 国内総生産(GDP) 89,631億米ドル(名目、2000年)
 1人あたりのGDP 34,063米ドル(名目、1999年)

2001年7月現在

福岡県人会	ハワイ	コナ	ハワイ島	マウイ	オアフ	モロカイ	カウアイ	マウナロア	マウナロア	マウナロア
設立年	1957年	1960年	1968年	1968年	1968年	1968年	1968年	1968年	1968年	1968年
世帯数	260	107	116	107	615	106	30	150		



高校野球
北九州選抜対ピアス郡選抜



日本人大リーグ選手



佐々木圭典



ピクニック



練習船「こじま」
歓迎会



マック鈴木



イチロー



アメリカ合衆国（シアトル福岡県人会）



シアトル朝まつり（世界一長い巻ズシ）



シアトル国産時吟会の8割以上が福岡県人会の会員



シアトル福岡県人会創立85周年記念祝賀大会（1992年）



シアトル福岡県人会
紅白歌合戦



シアトル福岡県人会ハリソン温泉（カナダ）バス旅行

ルーツは福岡 夢は世界へ
第4回 海外福岡県人会世界大会
報告書

発行 2001年(平成13年)10月
発行者 第4回海外福岡県人会世界大会
実行委員会事務局
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目1番1号
アクロス福岡8階
(財)福岡県国際交流センター内
TEL 092-725-9204

